

「おい、お前、辛かったら、苦しかったら、待ってろお、今オレが助けてやるからさ……」

ふかんど

№201号

1982.4.12

谷津千潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
電話 0476-1-1666八
編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

相見たり
重荷を負うて
ふたとせ
二十年と
風とお日さま
欲しかろに



〈再会〉 一九八二年四月九日午後三時十五分 「ふかんど」の砂に手を置く

右の伊真を見て下さい。中央部分、まわりをゴミに囲まれて、砂の所がわかるでしょうか。これが、「ふかんど時代」の砂なのです。

今日まで、およそ七百余名の、尊い土ノウ袋の生命が失なわれました。やっとここに、「二百三高地」の底に産するこゝが出来たのであります。また、莫の如くにすぎませんが、とにかく「ふかんど時代の砂」という突破口を開いたわけで

ございます。これから、残党持りと言おうか、周辺の掃討、作戦にかからねばなりません。ここに来るまで、多数の百足ムカデと、三匹の青大将（冬眼虫）と生会しまして、次々と立ち退かせました。くま手でかっぱりては崩し、すかさずありとあらゆるゴミを捨てていたら、パイプあたりは、ホースとおぼしきものがあつたので、ギョツと手でつかんで引っ張り出しました。「へびでした」。反射神経の早い私は、そのまま後へほうり投げました。ピツクリしたのは私のみならず、向う様と同じことだろう。いささつなら、お互いさまであらう。

皆さんに、この会報が届く頃は、殆んどゴミが「平定」されていくでしょう。

更には、こういうゴミ助を掃討するのは、雨の曰かいりんです。雨が降ったのに、カツパ着てやるのは大変でしょう、とほよよ言わ小ますけど、細り砂やホコリが出なくていいんですよ。わざ／＼水溜まりの水をバケツですくって、刃り一面、ゴミの山にぶっかけながらやったときは、二度や三度じゃありません。

今、奥から画へど、「ふかんど時代の砂」の領域を上げていくところです。千疋りの干潟には、日ごとにカニの穴が増えて来ています。そして、これ又千疋りの水溜りの水辺に、水草の芽があちこちに出ていくのです。



谷津干潟に来て..... 1982-4-14.

船橋も習志野も

こぞって都市雨排水とやらで

緑地を削り立木を切り、

ビルを建て道路を造り人工の公園を作る

一区画に何平米を作るわけよか

と云う予算規模のワクの消した。

どよもこも自然の息ふきとは

無関係な用途や法規に基づくものだ。

そこには人間のエコ.....

.....あー一部の人間の意志があるか

暖い自然とふれ合う心ある人間は存在だ。

もう海の母の採りたさを沼のそとやきも

打よせる力強い^{の響}心にしみるリス^{父の採り}もたない

とかこころの力への平づかみも奪われた。

一体次の世代には何を残そうと云うのか?

生きものがない人工の規格児童公園が日増にふえていく。

機械的に水を吹き上げ

冷たい風をしきつめた四角い空間

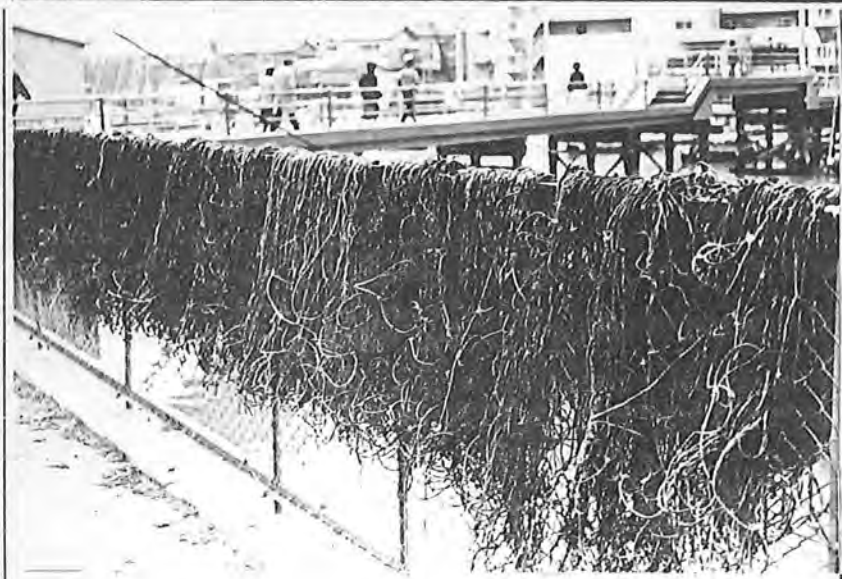
小鳥も水鳥もかきも、虫さえずみうしろ.....

この環境で自然と人間一人間と人間すれすれコミニティで暮らすのが

かかっている子供達

船橋・習志野地区.....いや人間のために

この干潟を守る。と云う大海の一口の努力であつた。



海から引き上げられ、ノリを取って使われた後は、こうして干され干すのです。

今は街中でと昔は海岸
海岸でなくなってきたから、とうとう三十年と

の月日が流れました。

京成電鉄の、太神宮下駅から海、それより
か「ララポート」と言ったほうが分りやすい
でしょう、歩いて二分足らずでここに来てし
まいます。

かつて、はるか干潟の沖から、次々と飛来
するオンジョ（ヤンヤンマン）に向って、「オ
ーンジョイヨイヨオー、オー、オー、オー、
ヨイヨイヨオー、オー」と、少年の私産が叫
んでいたのが、今はノリ網が干されていこ
ころのです。

干潟の中にヤケラを組んで、毎年花火大会
がありました。そしてここには、丸太と板で
座敷が作られ、ムシロを上げて見物しました。

ふかんど

号202

1982.4.14

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 ☎ 531-1666
編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

昼も、夜も やりまます

四月十六日よりやり始めました。今まで、午後一時から、午後五時頃までやっていました。

しかし、ここに来て、森田は更に強力に、「クリーン作戦モデル地区」に於いて、清掃・造成・改善を産めようと決心するに至りました。

堤防の下、すなわちゴミの山なる「二百三高地」は殆んど「平定」しましたが、約三週尚程、干潟の造成は全く手につきませんでした。八百三十くらりの土の袋を注ぎ込んで行われたゴミの山の攻撃に、全力を尽して来たからです。

ひと口に清掃と言ってもこのゴミ。まず、くま手でかっぱきくく、山を崩し、大半を手、灰や砂状のものはスコップで袋に入水て、ヤードにモをしめます。

次に堤防の下まで運び、十なりし十二がつまとめて、一つくかつぎ上げるのです。最後に、堤防の上の所定の所に土の袋を一輪車にのせていって、降ろし、積むのです。その他、袋に入らないうち

きな石、トタン、鉄骨、材木、各種パイプなど、袋で囲った中に入水するので、以上の如き具合なので、時間、体力、

午数からみて更に大変でした。

又、お金とかかりました。一袋二十九円の土の袋は勿論、一輪車の部品であつたタイヤや鉄板の箱はすぐ傷みます。(タイヤ一つ二千八百円、パンク一千二百円、箱一つ二千六百円)。ゴム手袋もズカズカになつてしまします(一つ五百円)。又、お腹をすくし、とてもノドがかわくので、飲み物や食べ物が欲しくなります。

今まで、現在も、ヤードからと、私産かやっていことは、全国的にも知り限りの例がなく、谷津干潟においては勿論誰と試みたことのない清掃・造成・改善方なのです。だから、手真をすい分とりました。

この「ふかんど」を読んでいる皆さん、私達の行為、テーブルとベンチの作成、「フロア」の小屋、造成・改善など、よくに、清掃活動(クリーン作戦)は、そのスケール、継続性、量から言っても、市民グループとして、日本全国中どこにも有りません。しかもズバ抜けております。全国いかなる所に行っても十分に誇るに足ることを、皆さんは自覚なさっていたのだと思います。

夜は、七時から九時頃まで造成・改善作業です事にしました。五時に終り、「いよいよ」でコーヒーと食事をとり、イトから又やっていきます。水草の芽、カニの穴が日毎に増え出しているので、力を込めて産めたいのです。

谷津干潟クリーン作戦に参加した人からの手紙

励まさずお読みください

時々、こういう手紙を読ませてもらうの
ないし、元気がなくなりません。つまり、
まあ、活力増といおうか、精神的ビタリ
こ済みたいるさのです。皆さん、どうで

森田様

昨日は、電話どうもありがとうございました。
昨日、谷津干潟で行なつた、クリーン探鳥会
は、中西悟堂加、五十年程前に、富士の裾野
で、初めて開いた、大探鳥会にも匹敵する、
探鳥会であつたと思ひます。

森田さんは、まご大波さんのことなれど、
気になさつて、おられるようです。人間、
人のやらぬことをやれば、波風が立つのは
当然であり、そこに、やまも、ちや及、柴も又、
当然起つてくるでしょう。

しかし、そのような画期的人間は、人の評
価の外で、生きていくべきは、ないでしょう。
それは、^{それは相成り}精神の強さ、逞しさが必要で
す。おれ、森田さんは、すでに、それを、持っ
ておられます。
おれ、天に恥じぬ行為であらば、何の、
やましいこともありません。

おれに於いては、常識的、世間的、打算的
に生きる人間よりも、カニや鳥の言ひ、無心
の評價を与えてくれるのは、ないでしょう。
人間、人の評価、凡評などを気にして
は、何もできません。
このことは、森田さん、皆自身か、一番良く
知つておられます。

昨日の電話では、はっきり云いませんでした。
昨日、昨日6月に、父親を亡くし、おれ以来
私の内面、大きな変化が、あつたような、
気がします。

森田さんに較ぶれば、まご、大いに甘さか
あると、思ひます。

しょうか、人間時には、多少オッチョコチヨ
イでき、軽ソシでもいいから、勇気を持ち、
元気を吐き出さねばならぬことがあつたやな
いでしょうか。時と場合によつては、ノボ
セ、上がる必要を認めてもいいんじゃないでし
ょうか？

(干潟の説明友の)

中 巻

先日、自然保護という雑誌を見ていました
ら、中に、辰蔵の平野長英さんに、東良三と
いう人が、書いた文章が、のつていました。
「美の世界に住むものは、
美の世界を守らねばならぬ。」

美の世界のため、^{美の世界を守るものは、}断つてはならぬ。
この文章を読んだとき、平野長英氏と同様
非常に感 動 しました。

森田さんの、やらせていることは、正しく
この美の世界のため、闘いであり、
今の私々に、最も欠けているもの、そして
今、最も
この、美の世界のために闘うところ、では
ないでしょうか。

森田様

「クリーンアップ・谷津」は、四月
十一日、(財)日本野鳥の会本部事務局
、日本野鳥の会千葉支部、谷津干潟
愛護研究会の三者協同で行なつた。初
の大規模な清掃活動である。

ふかんど

第203号

1982.4.16

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市北方二丁目三五ノ六
 電話 ☎ 0476-166668
 編集 森田三郎

会費 ¥2000

創刊
1980.6.3

十時半、若松団地バス停に集合。殆んどの人が干潟の清掃は初めてのことに。



女性のひと、私が考えついたより勇敢。干潟のどぐろ所に板を置いてやった。



なれない千つきで拾って来ました。私はこの日を待っていました。



塚本・本部研究部長、さまざまの大奮闘。まさか、この程やるとは……。



清掃、シギ・チドリを観察、やってミイレーティング。森田は参考になりました。



記念撮影です。前日の強風と雨とは違って変って、この日は抜けた如きのすばらしい快晴だった。



市民による不法投棄物と市は知っていてど

干潟の造成・改善作業はこんなふうにして

習志野市へは、「一発ブチかまして、やりたいたが。」

「森田さん、あなたはまあ、こんなにも上げちまってさあ、アタシやあどギモ扱か小たよあー、ー」と、習志野市の清掃事務所長

(岩下氏)。

堤防と境にして、上は市の管理、下の干潟は国の管理。

「ゴミを投げ、て来たのは習志野市民、その投げ捨てられたゴミのあつ所は国有地の干潟。市は、市長をはじめすでに知っていた。土ノウ袋の数は、その後も増えている。」

「集めたのに」市民グループ ゴミ袋の山放置

習志野市役所「国の責任だ」



袋に詰められた土砂などのゴミはいつなくなる
＝習志野市の谷津干潟わきで

くれる「主」を待っている。ゴミ。関東財務局千葉財務部はゴミを集めた市民グループは「市のほかに、現地を調査し」急なご役所の仕事なる」といふが、市は「国(大蔵省)の管理地から出てきたゴミ(主に土砂)まで責任を負えない」との見

が、心ない人たちがよく捨てられる。今度、谷津干潟環境研究会(森田三郎代表)の仲間が集めたゴミは、土砂やカシキなど燃やさないものは、習志野市清掃課では、この市民グループが拾ったゴミを三月二十六日まで処分してきたが、今回は「施設がいない」と説明する。関東財務局千葉財務部では、一昨年谷津干潟のゴミ掃除に約三万円をかけたが、その後は予算化していない。

朝日新聞

4月11日

毎日こつこつしてやっています

ぞつです、毎日してあります。

雨ニモマケズ、風ニモマケズ、冬ノ雪ニモ、シゾレニモマケズ、夜ノ闇ニモマケズ、ゴミノ多サヤ臭サニモマケズ、水ヤドロヤ砂ニモマケズ、へびヤ百足、氷ニモマケズニヤツテキマミター、。

「ここは、谷津干潟クリーン作戦モデル地区」。この近くの、あす先生。ゴミかぶり一面にあった頃は、「干潟には行ってはいけません。ゴミなどがあつので危険ですから」と。ところが、今年四月上旬、殆んどゴミを平らげ、干潟を造成した所にカニの穴が出来て、カニがとれようになると、生徒を雇ってカニをとりに来ていました。以前、学校によって、「立ち入り禁止」の看板を立てられていました。先生、声ぐらいかけて下さいよ、



写真提供 読売新聞 57.3月上旬

バードウィークと若草の季節に向けて、テーブルとベンチの「労」をねぎらおう！

ふかんど

№204号

1982.4.18

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市北の方二ノ三五ノ六
 電話 0476-31-6668

会費 年2000

創刊
1980.6.3

いつとなく、皆んなを
休ませて来ました・・・

「テーブルとベンチさん、どうもありがたうございました。この谷津干潟に来た人達は、皆んなあなたのお世話になっております。」

私達が、こうして座って、休み、鳥を観察し、ヒバリのさえずりを聞きながらご飯を食べ、話をし、スケッチ出来たのも、みんなあなたのおかげです。とくに、近くに田畑が出来てからというごとの散歩に来了数多くの市民はあなたを作ったのは県か市とさえ思っています。あなたオの存在によって、ここはすでに、半ば「公園化」してあるのが現実でございます。

ところで話は変わりますが、お見受けいたしますところ、お仲間の中にまだいぶくたびれ、負傷いたしておる方々もいらっしやいます。元は流木にして、少数のボランティアによるものなれば、はなはだ無理からぬところ・・・。

ついでにはこの際、日頃のお礼と感謝の意をこめて、こ小又新しい仲間なる流木さんをとってして、その労をねぎらう為めに治療と看護にあたらせていただきに上ります」。産みの親なる「愛護会」より

百八十余のテーブルとベンチ

谷津干潟の周辺に、それこそ「ズラリ」と並んでおります。出来てから、もう四年になります。その間、谷津干潟にど小程の人達が来たのか知りませんが、テーブルとベンチを使わない人、あついは利用して「お世話」にならな人、あついは、まず殆んどいません。干潟があつて、渡り鳥やカニや魚がいて、草はらがあつて、そしてそこにワニサ〜とテーブルとベンチ。誰がどう見たつても、公園してあります。

▼御礼と感謝の大修理▲

主催 谷津干潟愛護研究会

期日 一九八二年四月二十五・二十六日
(二日間)

時間 十二時〜午後四時半

場所 「フローネの小屋上」を中心としたテーブルとベンチの所

用意 軍手のみ

尚、クギ、カスガイ、ハンマー、ノコギリなどは全て当会で用意します。参加の仕方は自由。渡り鳥の最盛期です。観察のついでに参加して下さい。

へびが三匹いましたしゴミの山の中から

チドリ科	ガンカモ科
ハジロコチドリ	コフハクチョウ
コチドリ	オオハクチョウ
イカルチドリ	コハクチョウ
シロチドリ	リュウキュウガモ
メダイチドリ	アカツクシガモ
オオメダイチドリ	ツクシガモ
オオチドリ	カンムリツクシガモ
コバシチドリ	オシドリ
ムナグロ	マガモ
ガイゼン	カルガモ
ケリ	コガモ
タゲリ	トモエガモ
シギ科	ヨシガモ
キョウジョシギ	オカヨシガモ
トウネン	ヒドリガモ
ヒバリシギ	アメリカヒドリ
オジロトウネン	オナガガモ
ヒメウズラシギ	シマアジ
アメリカウズラシギ	ハシビロガモ
ウズラシギ	アカハシハジロ
ハマシギ	ホシハジロ
サルハマシギ	オオホシハジロ
コオバシギ	メジロガモ
オバシギ	アカハジロ
ミュビシギ	キンクロハジロ
ヘラシギ	スズガモ
エリマキシギ	コケワタガモ
コモシギ	ケワタガモ
キリアイ	クロガモ
オオハシシギ	ピロードキンクロ
シベリアオオハシシギ	アラナミキンクロ
ツルシギ	シノリガモ
アカアシシギ	コウバガモ
コアアシシギ	ホオジロガモ
アオアシシギ	ヒメハジロ
オオキアシシギ	ミコアイサ
カラフトアオアシシギ	ウミアイサ
クサシギ	カワアイサ
タカフシギ	カモメ科
メリケンキアシシギ	ユリカモメ
キアシシギ	セグロカモメ
イソシギ	オオセグロカモメ
ツリハシシギ	ウシカモメ
オグロシギ	シロカモメ
オオソリハシシギ	カモメ
ダイシャクシギ	ウミネコ
ホウロクシギ	ズグロカモメ
シロハラチュウシャクシギ	クヒワカモメ
チュウシャクシギ	ミツコヒカモメ
ハリモモチュウシャク	ソウゲカモメ
コシウシギ	ハシロクロハラアジサシ
ヤマキ	クロハラアジサシ
アマミヤマシギ	ハシロクロハラアジサシ
タンキ	オニアシサシ
ハリオシギ	オオアシサシ
チュウジシギ	ハシフトアシサシ
オオジシギ	アシサシ
アオシギ	ベニアシサシ
コシギ	エリクロアシサシ
セウタカシギ科	コンシロアシサシ
セウタカシギ	ナンソウウマシシロアシサシ
ソリハシセウタカシギ	マミシロアシサシ
ヒレアシシギ科	セグロアシサシ
ハイイロヒレアシシギ	コアシサシ
アカエリヒレアシシギ	ハイイロアシサシ
ツバメチドリ科	クロアシサシ
ツバメチドリ	ヒメクロアシサシ
タマシギ科	シロアシサシ
タマシギ	クイナ科
ミヤコドリ科	クイナ
ミヤコドリ	オオクイナ
カイツブリ科	ヒメクイナ
カイツブリ	ヒクイナ
ハジロカイツブリ	シマクイナ
ミミカイツブリ	マミジロクイナ
アカエリカイツブリ	シロハラクイナ
カンムリカイツブリ	パン
ハタオリドリ科	ツルクイナ
ニューナイスズメ	オオパン
スズメ	

サギ科	
ゴイサギ	
ハシブトゴイ	
ササゴイ	
アカガシラサギ	
アマサギ	3
ダイサギ	
チュウサギ	4
コサギ	1
カラシラサギ	
クロサギ	
アオサギ	
ワシタカ科	
ミサコ	
トビ	
ハイイロチュウヒ	
マダラチュウヒ	
チュウヒ	
ハヤブサ科	
シロハヤブサ	
ハヤブサ	
チコハヤブサ	
コチョウゲンボウ	
チュウゲンボウ	
フクロウ科	
トラフスク	
コムシスク	
ヒバリ科	
ヒバリ	+
ハマヒバリ	
ツバメ科	
ショウトウツバメ	
ツバメ	
アトリ科	
アトリ	
カワラヒワ	
マヒワ	
ヒヨドリ科	
シロガシラ	
ヒヨドリ	
モズ科	
チゴモズ	
モズ	
セキレイ科	
セキレイ	
ハクセキレイ	
セグロセキレイ	
マミジロタヒバリ	
コマジロタヒバリ	
ヨーロッパヒンズイ	
ヒンズイ	
セジロタヒバリ	
ムネアカタヒバリ	
タヒバリ	
ホオジロ科	
ソノベリアジュリン	
オオジュリン	
ホオジロ	
コジュリン	
ヒタキ科	
ツクミ亜科	
ショウビタキ	
ノヒタキ	
ウツイス	
コヨシキリ	
オオヨシキリ	
ツグミ	
セウカ	
ムクドリ科	
ムクドリ	
カラス科	
ハンネツカラス	
ハシブトカラス	

調査者
石川勉氏



「二百三高地」の「主」
合計、三匹出て来ました。三匹とど、ニメートルぐらゐるかなり長いへびでした。青大将です。
でど、本当は、出て来たというよりも、出してしまった」と言っておが正しいのでしよう。一匹は、プラスチックのパイプの中に。次は、積った古い木クズの中。そして三匹目は、つまり、まどとにキでつかんでしまったわけです。砂と灰がかぶったパイプとて、つかんで引張り上げた、ゲニマッとしたのでホースかと思っただ、が、頭と目があった、つまりへびでした。へびには申し分けなりの、とにもかくにも次々とゴミをエノツ袋に入れて庭んで来ました。

ちょっとじゃまな気としますけど・・・



「おい、バンザイしてみなっしと言っ
たりこんな恰好をした。この坊や、きん
いにした砂浜に棒をつっつくのが大好き。」

「あたし産散歩に、皆んなでここんとこ
に来てんの・・・」と。「へえ、子供が散
歩とわねえ、変に大人びてるんじゃないの？」



習志野の皆さん、かつてここは文字通
りの「ゴミ捨て場」でした。そして今は
、あなた方の子供がこうして来て、遊ん
でいくようになりました。
私産の「谷津干潟クリーン作戦」の戦
線は、谷津干潟全域に及んでおり、この

モデル地区はその中の一部、一つの戦線で
しかありません。したがって四年間と取り
くんでいます。自分産がゴミを捨ててお
いて、「危いから行ってはいけない」と言
われていた、ここなのです。月一度の清掃、
くず入れの一つでも設置して下さいよ。



右側の水溜まりの中に島を作りました。
この二人は流木を持って来て、橋の代り
とし、島をつなぐつもりである。

棒で地面、するむち干潟に穴を掘って
カニをとっている。以前はここを、石ヤ
ガラスで表面がおおわれていた所。



ふかんど

※205号

1982.4.19

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市小北方二ノ三五〇六
電話 0476-31-1666
編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

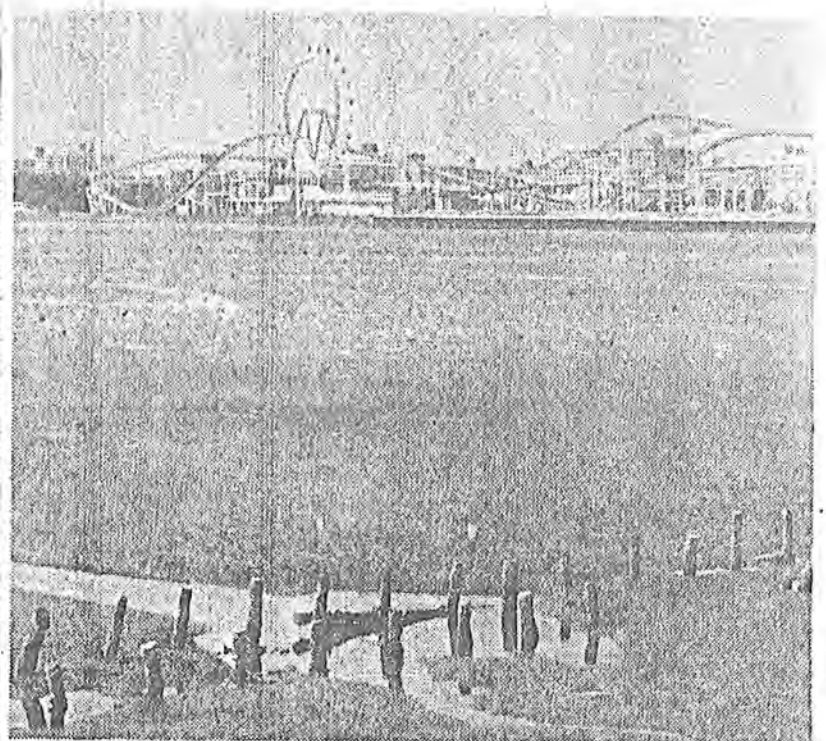
子ドリ科	ガンカモ科	サギ科
ハジロコチドリ	コブハクチョウ	ゴイサギ
コチドリ	オオハクチョウ	ハシブトゴイ
イカルチドリ	コハクチョウ	ササゴイ
シロチドリ	リュウキュウガモ	アカガシラサギ
メダイチドリ	アカツクシガモ	アマサギ
オオメダイチドリ	ツクシガモ	ダイサギ
オオチドリ	カンムリツクシガモ	チュウサギ
コバシチドリ	オシドリ	コサギ
ムナグロ	マガモ	カラシラサギ
ダイゼン	カルガモ	クロサギ
ケリ	コガモ	アオサギ
タゲリ	トモエガモ	ワシタカ科
シギ科	ヨシガモ	ミサゴ
キョウジョシギ	オカヨシガモ	トビ
トウネン	ヒドリガモ	ハイイロチュウヒ
ヒバリシギ	アメリカヒドリ	マダラチュウヒ
オジロトウネン	オナガガモ	チュウヒ
ヒメウズラシギ	シマアジ	ハヤブサ科
アメリカウズラシギ	ハシビロガモ	シロハヤブサ
ウズラシギ	アカハシハジロ	ハヤブサ
ハマシギ	ホシハジロ	チコハヤブサ
サルハマシギ	オオホシハジロ	コチュウゲンボウ
コオバシギ	メジロガモ	チュウゲンボウ
オバシギ	アカハジロ	フクロウ科
ミユビシギ	キンクロハジロ	トラフスク
ヘラシギ	スズガモ	コミミスク
エリマキシギ	コケウタガモ	ヒバリ科
コモンシギ	ケウタガモ	ヒバリ
キリアイ	クロガモ	ハマヒバリ
オオハシシギ	ピロードキンクロ	ツバメ科
シベリアオオハシシギ	アラナキンクロ	ショウトウツバメ
ツルシギ	シノリガモ	ツバメ
アカアシシギ	コオリガモ	アトリ科
コオアシシギ	ホオジロガモ	アトリ
アオアシシギ	ヒメハジロ	カワラヒワ
オオキアシシギ	ミコアイサ	マヒワ
カラフトアオアシシギ	ウミアイサ	ビヨドリ科
クサシギ	カワアイサ	シロガンシ
タカフシギ	カモメ科	ヒヨドリ
メリケンキアシシギ	ユリカモメ	モズ
キアシシギ	セグロカモメ	チゴモス
イソシギ	オオセグロカモメ	モズ
ソリハシシギ	ウシカモメ	セキレイ科
オグロシギ	シロカモメ	キセキレイ
オオソリハシシギ	カモメ	ハクセキレイ
ダイシャクシギ	ウミネコ	セグロセキレイ
ホウロクシギ	ズグロカモメ	マミジロタヒバリ
シロハラチュウシャクシギ	クビワカモメ	コマミジロタヒバリ
チュウシャクシギ	ミツユビカモメ	ヨロップバビンスイ
ハリモモチュウシャク	ソウゲカモメ	ビンスイ
コシャクシギ	ハジロクロハラアジサシ	セジロタヒバリ
ヤマシギ	クロハラアジサシ	ムネアカタヒバリ
アマミヤマシギ	ハシグロクロハラアジサシ	タヒバリ
タシギ	オニアジサシ	ホオジロ科
ハリオシギ	オオアジサシ	ジベリアジュリン
チュウジシギ	ハシフトアジサシ	オオジュリン
オオジシギ	アジサシ	ホオジュロ
アオシギ	ベニアジサシ	コジュリン
コシギ	エリグロアジサシ	ヒタキ科 ツグミ亜科
セイタカシギ科	コシジロアジサシ	ジョウビタキ
セイタカシギ	ナンヨウマミジロアジサシ	ノビタキ
ソリハシセイタカシギ	マミジロアジサシ	ウグイス
ヒレアシシギ科	セグロアジサシ	コヨシキリ
ハイイロヒレアシシギ	コアジサシ	オオヨシキリ
アカエリヒレアシシギ	ハイイロアジサシ	ツグミ
ツバメチドリ科	クロアジサシ	セッカ
ツバメチドリ	ヒメクロアジサシ	ムクドリ科
タマシギ科	シロアジサシ	ムクドリ
タマシギ	クイナ科	カラス科
ミヤコドリ科	クイナ	ハシボソガラス
ミヤコドリ	オオクイナ	ハシフトガラス
カイツブリ科	ヒメクイナ	
カイツブリ	ヒクイナ	
ハジロカイツブリ	シマクイナ	
ミミカイツブリ	マミジロクイナ	
アカエリカイツブリ	シロハラクイナ	
カンムリカイツブリ	バン	
ハタオリドリ科	ツルクイナ	
ニューナイスズメ	ホオバン	

石川さんの「特技」に敬服
谷津干潟にいたる渡り鳥は、まさに「飯の上にゴマをふりかけた如くである。場

所によっては各種の鳥が、それぞれゴチャゴチャと入り混って、しかも「うごめいている」のだ。それを目で追ひ、手の力ウンターで一匹く数えるのだからね。

調査者
石川 勉氏

谷津遊園 谷津干潟 「合体して都市公園に」



保存の声が強い谷津干潟(手前)と谷津遊園(後方)

共産党提案に共感広がる 緑豊かな野鳥の楽園

千葉・習志野

【習志野】千葉県習志野市にある谷津遊園が、これまで閉鎖されてきたが、共産党の習志野市議団は、市民から求められた保存の要望が、谷津干潟と谷津遊園の合体による都市公園にするよう提案を、この提案に「ぜひ実現させたい」と市民の関心と期待が高まっています。

谷津遊園は、交通も便利で園児や学童の遊歩や県民の憩いの場として親しまれ、年間百六十万人が利用しています。所有者の京成電鉄は「二十三区の遊園地を、住宅・都市整備公団に売却する方向で話を進め、同公団では七千人程度の住戸団地の建設を計画しています。市民の間から、長年、保護を求められてきた谷津遊園を残したいと県や市へ請願も出され、存続運動が続けられています。

遊園地と隣接する谷津干潟は、千葉県の東京湾岸でたった三つしか残っていない貴重な干潟の一つです。同干潟は、三十石の国有地でチドリ、カモシギなどの野鳥の楽園となり、野鳥愛好家の格好の観察場でもあります。自然保護団体や干潟の存続を願う住民の働きかけもあって、習志野市と習志野市議団は、谷津遊園と干潟を合わせた都市公園指定の基礎となる。東京測の敷地を干潟を守り、谷津遊園を残すために都市公園の建設を」と提案、習志野市長も「提案は素晴らしいアイデアだ。国や県へ働きかけたい」と答えました。

吉田市議は「市民一人当たり公園面積は〇・八平方メートル、市としては県内で最低クラス。この機会をのがしたらもう市内に大規模公園は作れない」と話しています。谷津遊園の存続運動を進めてきた谷津ハイソ自治会長の鬼塚勝彦さん(55)は「過密都市のなかであって自然の干潟を含めた公園は習志野市民だけでなく県民にとっても強い要望だ」と話しています。

(自の情報 は 石川 勉 氏 の 特別 の 好意 に よ る の で す)

ふかんど

オ206号

1982.4.21

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市北方二丁目三五番六
 電話 ☎ 0476-1-6668

編集 森田三郎

会費 年2000
 創刊 1980.6.3

「バードウィーク」の為に

▼ 習志野市袖ヶ浦公民館

五月十一日～五月十七日

一人でも多くの人産に
 知ってとらいましよう

▼ 千葉相互銀行秋津支店

五月一日～五月三十一日

∴ 尚、五月一日に完成する谷津公民館でも場所かと外たらやります。

上の場所は、谷津干潟にととど近所になります。地の利を十分得ての行事だと思ひます。作品は、・渡り鳥のパネル写真、・谷津干潟の生物標本、・谷津干潟自然教育園の絵、・谷津干潟の憩いのイラストです。

谷津干潟という名前は、かろりの人産に知られて来ました。私産はここからと、機会の大小を問わずして、あづりる試みを断之向なくくり上げて参りたいと思っております。

ゴミと格闘の現場写真

ミホいな砂は、ほおってよくと自然に雨や風でくずれていきます。その上と、ゴミと及がすっかりかぶさるような

形であっています。そしてそこに、分厚いジュウタンの如く雑草が生え、草の根とゴミがぎっしりとからみ合っていて、全く分けようがありません。ある時は上から、別の時は下からと前進して行ったのです。



今から映画の撮影に行きます。
 ツリイで読むより実際にここに来て
 自然の尊厳を教えられる方が気が楽です。
 ぜひ 良の作品をこれとつづいて読んで
 ほしい。みんなも一緒にがんばらう。

S. 57. 4. 21 (水)

今日は（もつ）のんた 天気です！
 とは、少なくて、名前が（し）た（い）。と（り）か
 左（さ）の（さ）ま（り）羽（は）くら（い）。1（つ）す！
 今（いま）は、学校（がっこう）の（かえ）り（ま）す。
 かま（た）し（た）ま（り）の（か）た（へ）前（ま）方（かた）に（ま）り（ま）す（ら）い。
 お（い）い（ま）す（て）い（ま）す（て）！
 （ま）り（ま）す（ら）い（ま）す（ら）い（ま）す（ら）い。
 ち（か）た（へ）こ（こ）は「（ま）り（ま）す（ら）い（ま）す（ら）い」です！
 と（ま）り（ま）す（ら）い（ま）す（ら）い（ま）す（ら）い！
 こ（こ）から（も）こ（こ）を（ま）り（ま）す（ら）い（ま）す（ら）い！
 津田沼高校の1年 Freshman.
 K.H., M.I

渡り鳥の楽園あす大掃除

シギ、チドリなどの渡り鳥の
 安産地、谷津干潟。千葉県野
 野市の大掃除が十一日に行わ
 れる。「野鳥の楽園」と言われ
 てきた谷津干潟も最近では周辺の
 埋め立てや東京湾岸道路の建設
 工事のせいで渡り鳥の飛来数は
 減り気味。四月下旬の渡り鳥シ
 ーンズを前に、なんとか渡り鳥
 に快適な干潟を取り戻そうと、
 日本野鳥の会千葉支部が計画
 した。

谷津干潟 野鳥の会、開発の波の汚れ落とし 「もっと飛んで来い」

野鳥の会では十一日のクリ
 ーン作戦に関係者約五十人を
 動員する一方、一般市民にも
 理解を求め、もちろん大掃
 除の後、野鳥観察会や懇談会
 も開く予定。野鳥フンの市
 民が増えれば鳥獣保護区指定
 で市への圧力も強まる。この視
 みがあるわけだが、市は開発
 か自然保護かの板ばさみにあ
 り、判断を決めかねている。

本来、「観察」と「保護」
 は別々でなかったと思う。そ
 れがあたりかき、別々のように
 なってしまったのは、やはり
 自然保護関係者の責任であら
 う。とにかく、上の如き動き
 が谷津干潟で出て来たのは、
 本當にうしろいと思っっている。

湾岸道路から、少し津
 田沼高校がわにきた所。
 ここは習志野市秋津。
 千葉県大気汚染測定
 車とボデイに書かれて
 いる。四月二十七日に高
 速部分が開通する為だ。



天声人語

四十数年、多摩
 川の野鳥を振り回
 ってきた津田英守
 さんがこういつて
 いる。「多摩川の
 水が少しきれいにな
 った」という人がいますが、
 私の印象では汚染のすさまじ
 さは変わりません。一大下水
 道と化した川の底にはますま
 すヘドロがたまり、酸欠で魚
 が死ぬ。このままでは多摩川
 は死にます。▼多摩川の二子
 橋付近で十匹のサケの稚魚
 が放たれた日、その上流の府
 中市では、約五千人の住民が
 集まって川はたのゴミを黙々
 と拾い集めていた。年に一度
 のこの多摩川清掃運動はもう
 九年も続いている▼参加者には
 大きなビニール袋が配られ
 る。筆者もその袋を手にして
 野球帽姿の子もたの集団
 に加わった。空きカン、空き
 びん、ビニールの切れ端、プ
 ラスチックの断片▼紅紫色の
 花を咲かせるカラスノエンド
 ウの茂みで、タイヤ、ゴルフ
 のボール、腐った手袋、運動
 靴が散乱している。河原がゴ
 ミ捨て場になるとゴミがふ
 え、ネズミをねらうマムシが
 ふえる。さらに上流では、夏
 は、長靴でないと危険な歩け
 ないところがある、と聞いた
 ▼それぞれの袋がはち切れん
 ばかりになると、河川敷は見
 違えるようにきれいになる。
 運れてきた老人が「これでは
 もう、空きカン探しは宝探し
 だ」と笑う。この日、十匹の
 流域で集められたゴミは十・
 五、という記録的な量になっ
 た▼だが、五千人の市民がい
 くら精を出しても浄化できぬ
 ものがあった。ヘドロと、そ
 の悪臭である。水があふれた
 後の河原の残みはヘドロにま
 といつかれ、黒灰色の汚泥の
 中にネズミや魚の死体がごろ
 がっていた。汚泥をはね返す
 勢いでオオイヌフグリの映
 っているのが見えた▼十年、
 二十年の歳月が生んだヘドロ
 を浄化するには、どうしたら
 いいのか。ゴミを捨てる市民運
 動はやがて、川の生態系をよ
 みかえらせる運動に育って行
 くだろう。昔の多摩川（玉
 川）は水がゆたかに青白く流
 れ、川底の石が玉のように光
 る川だった。

参加人数が五千
 人とは更にうらや
 ましい限りです。

真夜中の「谷津干潟クリーン作戦」

ふかんど

第207号

1982.4.23

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五番六
 電話 ☎ 0476-166668
 編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
 1980.6.3

更に次の日の最初をもど厚く

時は草木と眼る丑三ツ時。

するわち、午前0時から三時頃にかけての時である。「クリーン作戦モデル地区」では、ある物音がしている。「サクツク」「ドサツ、ドサツ」「ギコクク」「ギョー、ギョー」「ジャボク」「ビシヤビシヤ」と。時々、鉄製の物が石やガラスなどのビンに当たると、「カチツ」とか、「ゴキーン」と辺りにひびくのである。砂の上に身を屈めては、砂の中に手を入れ、何かをまさぐっている。

今度、夜のほかに、更に又夜中にさすことになりました。まあ、その日によって多少の時間のズレはありますが、一時半から二時頃ぐらい。もうやっていきます。決して無理をするつもりをないし、又し

ていなりつとりです。これで、一日、三回干潟の作業にとりくむことになりました。午後一時から四時半、七時頃から九時半、そしてここに来て十二時すぎから三時の間、一時半から二時頃ぐらい。

最初の頃は、次の日の午前中体がだるかったが、今はそんなでさなり。それに、時や日にちというものは、一度過ぎ去ったらもう二度とかえって来ません。言うまでもなく、元へ戻らなりのです。でも、それと比べ、疲れは、くだびれたら、眼水は直るのです。森田、少しでも時間が欲しいのです。

もう十八年程前のことですが、昼間会社に勤務して、夜は定時制高校に通っていました。私は本を読むのがものすごく好きで、すさまじい欲求のときにむさぼり如く読んでいた。が、何せ、朝七時に出勤して帰るのが夜の十時すぎ。それからすぐ読むのであるが、一時頃になると家の人が「早く寝ろ」と毎日怒った。くどくどとくる日も。時たま、自分を考え、「どうしてオレには、こんな時間がなりたいんだろう」と涙がこみ上げて来た。そんな青春時代もあったのを思い出しました。

お村様

「ふかんど」207号を見ますと、4月16日より、昼の他に、夜も二時間程始めたとの事。まさしく、これは間違いないと思えました(失礼ながら)人間、体が資本です。どうか、体には、十分な気をつけて下さい。自然回復への道のりは、まあ長いのですから。

1982.4.22

山崎統司(旧姓・中村)さんからです。

引き取り手が無いまま、毎日積み上げられてゆく、不法投棄物を入れたエノウ袋の山



エノウ袋の為にカンパしてくれた人へ、
 これを以って「実物領収書」と致します

上の写真は、二月下旬より
 四月十一日まで拾い集めら
 れ、袋に入れた、堤防の上へ
 と引き上げられたものです。
 今なお、一日に六十袋ぐら
 いずつ増え続けております。

この他、袋に入らな
 りた物や長い物が、かなり別
 に引き上げられています。丈
 体の計算ですが、袋の数は八
 百は越えていたと思います。

全長は約七十メートルにもな
 っています。今は、袋の列
 は右へくとのびていつてい
 ます。車や人の通行の妨には
 ならないようにしてあります。

更はこの中に、ヘビが一匹
 、青大将ですが、入っています
 のです。プラスチックのパ
 イプの中に入れてあります。
 パイプを履んでいつて投げ出
 したら、石に当たって少し割れ
 ました。よしたらその割れた
 所から、ヘビの体が見え、う
 ごめいていました。でも、面
 倒くさいのでそのまま木材を
 積んでしまいました。

しかし、皆さん、上の写真
 のゴミだって、今まで私達が
 谷津干潟から引き上げたゴミ
 の量からみたら、ホンの一部
 分にしかすぎないのでしょ。

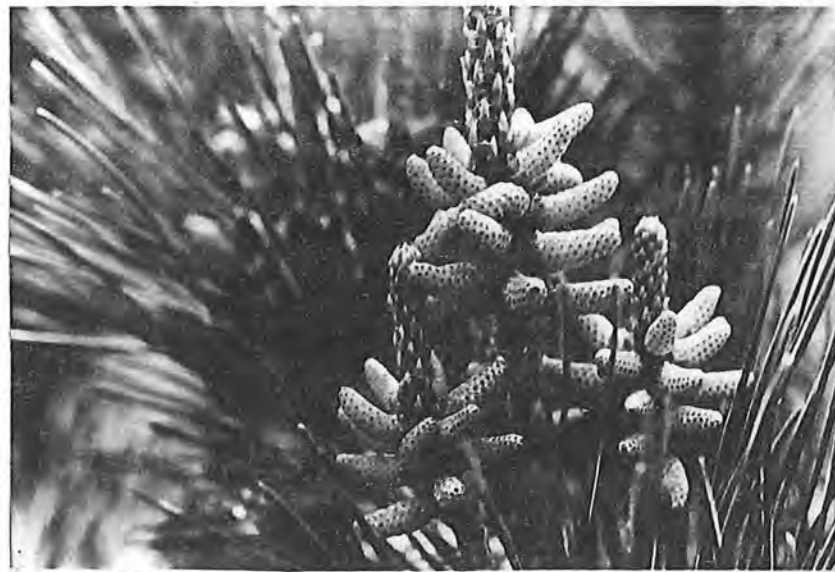
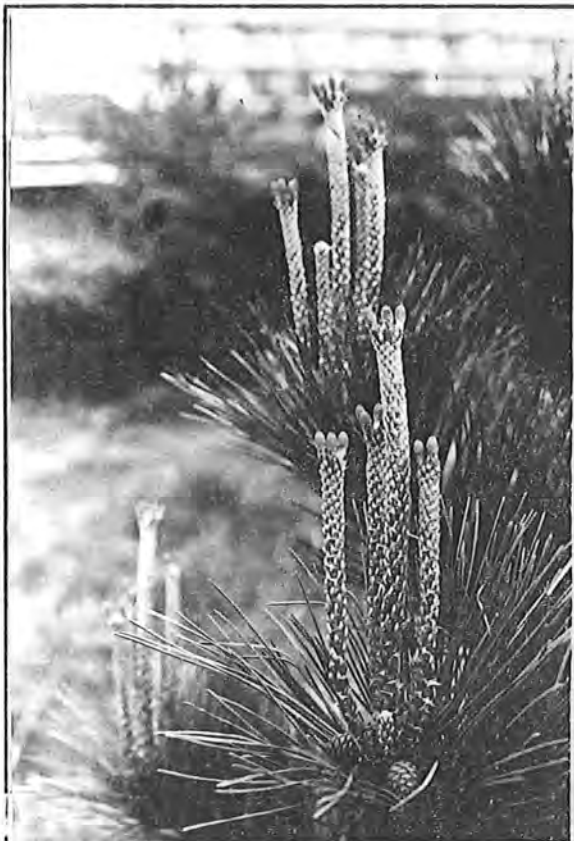
そは事更ななだから、しよ
 うがない。更に、ごく一部で
 しかないのです。

近くの市民の中には、もし
 かしたら、「目ざわりだ」と
 思っているかも知れません。

でも、このゴミ、自分たちが
 出して、捨てていったのです
 から、何んにも言えないのでし
 ょう。もし二年前にこんなふ
 うにしたら大変、「こんな所
 に置かないで下さい。あなた
 がそうじをしたんですから、

自分で始末をして下さい」と
 喰ってかかって来たと思ひ
 ます。然り、その通り、私は
 何回もそういう目にあいまし
 た。今さっき捨てておきなが
 ら、私が拾い上げてゴミ集収
 所にまとめて置くと、メタメ
 タに文句を言われていました。
 が、今は、全く違うのです。

あゆから五年、今年と育って大きくなります。



ふかんど

第208号

1982.4.25

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
 電話 〇三三二一六六六八
 編集 森田三郎

会費年2000

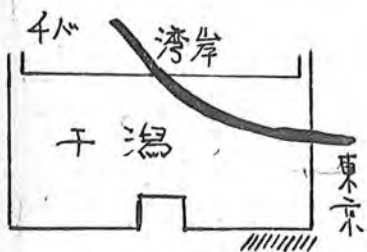
創刊
 1980.6.3

植えた時はかわいらしい苗木でした。それ
 が今はかなりでっかく、ごっつくなつて
 来ました。

右上の写真の所など、中々いい気色だと思
 いませんでしょうか。市はここを整地し
 て、適当なゆをおりて木を植え、まきちん
 っとしたという計画があります。でと見
 たところ、自然で、キリギリス、コオロギ
 、バッタ、スズクチョンなどが、いかにも
 好みなような感じですね。実は、私は、干潟

周辺ではここがいちばん気に入っている所
 なんです。そして又、昔の谷津干潟の面影
 が、とっとと多く残っている所でもあります。

あの小さかった松の木
 が、一人前に秋ホシクリ
 までつけるようになりま
 した。これからの生長が
 とっても楽しみです。も
 虫もやっていますか。



(略図)

4月20日(火)

山崎

夕日、夕いぶりに友達に会った。
 こころも夕いぶりに来た。
 前に来たとき、とてもかわって、いたのでびっくりした。
 夕日は、夕方。
 鳥、ほんのりだから、ないけれど、リッショウけん命、生きて
 いるんだね。
 うめたてられた所にあった、鳥の巣(卵)は、セウなだろう。
 かわいそうに。
 この夕日に、いいところの、なぜうめたててしまうのだろう。
 鳥も、人間も、かわいそう。
 人間は、自分で自分の首をしめている。
 「いいけしまた」というのに、うめたててほう。
 あ～ 日がくだんだ

どうか、ここをもうきれいしよう。

うめたてはいて下すい。

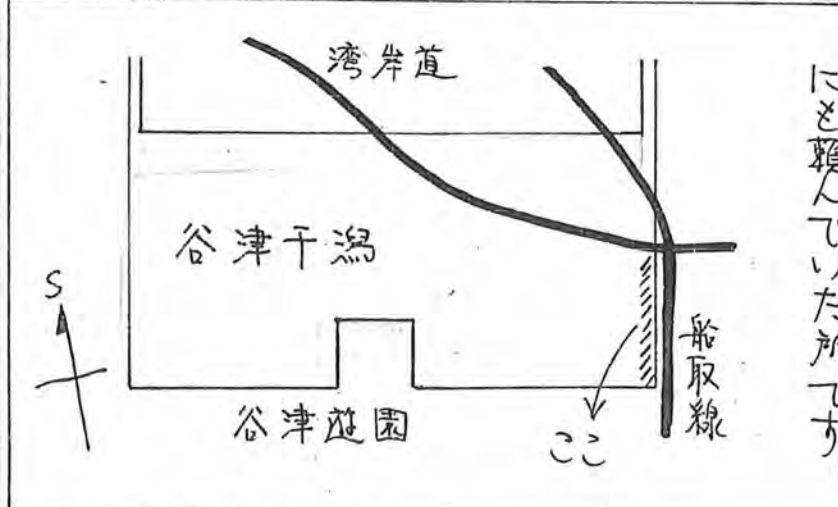
4月20日 夕いぶ Y.O

今日は夕もいい日だね。

去年の4月3日はとしちゃん(マツキヨウちゃん)のコンサートに
 いった。

としちゃんねんぱん

スッパマンとシメ



「いいですね、現在すでに危険なんで
 すよ。今日にでも人身事故が起きては不
 思議でない所だと、あなた(企業者)に
 確と伝えておきますよ。だから、もし後
 日、事故があったら、かわてより私から示マ
 小てしたにもかわらぬが、企業者は何ともしな
 かったと言って、あなたの名前を伏しますよ
 して、二度かけ合った。そして又、道路公団
 にも頼んでいた所です。」

「おじさん、ぼく達何かすることありませんか？」



子供達が、そう言うてくるのであった。
 あれえ、おやおやー！？と思っいたら
 「おじさん、いつか、ゴミ拾ってきかい
 にしてらんだってねえ、ぼく達を今日はさ
 あ午休ってやよあ、んでさあ、何した
 らいいですかあ？」ときき言っのであ。

「おじさん達が、ここんとこきかいにし
 たんでしょ？」とか、「オレ達りん海だか
 らよあ、きかいになくっちゃあなんて
 言っているのである。「裸足で、汚れて大
 丈夫かあ？」と言うと、「うちのお母さん
 、こういうことならあすげえくサンセエし
 てくんださん」という言葉であった。



ふかんど

第209号

1982.4.28

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二ノ三五ノ六
 電話 0476-1-1666
 編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
 1980.6.3

0476
 51-
 504

4月27日 火 (土)

津田沼高校生物部

私たちのつづきは写真部としていこうになる
干潟の野鳥観察をしていこう
生物部は、ほとんどの分は、壁を
野鳥を観望したり、カメラをしたりしては、
いつか、野鳥の会のメンバーが
記念に残る事や、鳥たちの観察を

いっしょにほせんか！
みんなは津田沼高校生物部
津田沼高校は今日もがんばる

一同礼

5月2日 (日)

鳥さんへ。

何ていう鳥たかゆからないけど、白い鳥さん。今日あなた
のことを観察している人たちいました。あなたは大き
く見えたけど、他の鳥さんは小さくて分からなかった。よ
くあなたたちは、ヘリコプターが空を通ってもにけな
いの？ もうなれちゃったの？

この前きたとき、こゝで「クワケ」とかにをみつけた。さ
ななをたぐるらしいけど、クワケやかには、たぐなりの？
おいしいかもヨ

またきてかきまわ

さようなら
マールの 鳥をたぐる人より。

4月28日 水 (日)
谷津干潟の会

ペンサイン

これからはがんばりましょ
市に申し込まましょ

みんなまで

やばい。今私たちは、
干潟をいっしょにけんめい
守っているんだとゆうことも、
市内の人、いや県内の人
に知ってもらおう。

日本人は本気でみんなを
やさしい心でか

右翼左翼もさうな政治家
いけ。

ふかんど

★210号

1982.5.2

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 ☎ 571-1666
編集 森田三郎

会費年2000

創刊
1980.6.3

▶ 今号は通信箱特集です ◀

5月3日

今日 A.M. 11:00 ころ 111コフターを飛んでい
たのに、シギや鴨4ドリがみんな飛び立った
そのとき大人のたち3人位が
トラゾクカモを石壁認したぞうだ
残念ながら私には石壁認だった

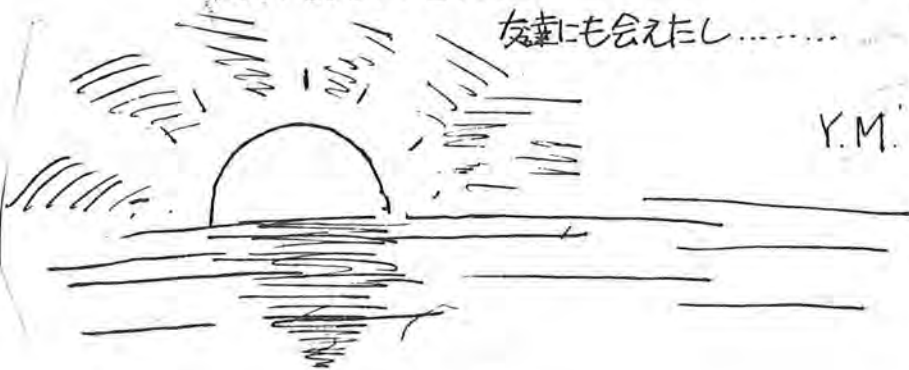
字が汚なしてごめんなさい
又来ます

4月20日 五州 知子

お返しは景色だと思おうね。
またくる時はまたおね。
お城鳥はいいーい。

4月20日 火 晴れ

今日はとてもいい日だった。
友達にも会えたし.....



5/1

このコートと。先日子供達と散歩に来てはじめて
知りました。そして子供と一緒に感激し。いつか
何か自分達の気持ちも綴ってみたいか思っていました
鳥のこには全くのシロウトで。家で飼っている
インコ、十姉妹、木ウヰロ(これは飼ってはいけなそう
でか) ヂロ、スズメ(庭の鳥小屋が大きいので、
インコ達とも共存共生を長らく続けています)
のこらいいしかわかりません。おとは一般的な鳥(中
うこは知っています)に、野鳥にこんな沢山の
種類があることは、ホントに知りませんでした。まして、
この、干潟に、何と多くの種類がきていることが、
はじめて知り初めて感激しているところですよ。
私共はこへ転居してきたばかりです。
朝早くから、鳥の声で眼をさます。何ともの
せいで、素晴らしい気分を満喫しています。
私は少しばかり絵を画きますので、干潟の向こうに
沈んでいく夕陽と、灰色に淀んだ静かな干潟
を対象的に一枚のキャンバスに描きたいと
今構想をねています。
野鳥の会の皆様、私達の心のうらおいを
ありがたうにさせていただきます。今後とも是れ研究をお続け
下さいますように。

マール スカイハイム
M. N.

谷津干潟通信箱 ～みんなの声～ (No. 882, 883)

● 今、テーブルとベンチの丈修理中です ●

5月1日 くもり風のよし

森田さんへ

今日初めて自転車がこちらへ来ました。長男の杉久も一緒に自転車も二台、ここまで来ました。この干潟をぐるりと半周してきましたのですが、とても良いサイクリングロードなので、気持ちよく安全に走ってこれて、うれしいかぎりです。

くもり空の下に、ヒバリでしょうか、上空でピークとにぎやかに飛んでいます。誰もいない静かな干潟です。

4月の初3火曜日の夕方に、また来れずごめんね。2月につき 親3人またまたの度ちかく発熱して寝込んでいたのです。本当にだらしないかぎり。すっかりお医者さん通いや仕事に休ました半月でした。5月には参加します。まよ...

3丁目のグニが一段落して、「おゆん」とか中200号をこして、森田さんの仕事も一段落したのかと思っていたら、まだまだ干潟の造成に忙しいようす。ご苦労様です。

これから、外でお花畑のいい季節。この干潟のテーブル、ベンチもさかかしにぎわうことでしょう。また天気の良い日 子供をきます。主人もあてにしていると、何か何かこれませし、いいサイクリングロードをさ、よくと走れるのも気持ちのいい5月ですわ...

こちらの力への大きいことにすごく感激しています。つかまえてほしいと子供がせがまれて困っているところですが、とにかく、これだけエサが豊かたら、鳥たちもあまりますね。

よつだ、先日 羽田飛行場へ友人を乗せにゆく途中、大井野島公園へはじめてきました。休日ということもあって野鳥会の人もいて、とても良い設備におどろきました。これも早く、あつたに、たのめる野鳥観察舎ができるといいですね。

では、お元気で

宮川 郁子、杉久、峰之

4月27日(火) くもり、すざい風、

よー私 今日初めに友だちとここに来ました!

ちなみに友だちは前ページの記録者です。すごく風が強いのよ、かんど所に降りる時

スカートがめーいっぱりまくれました!

今日は風が強いので、^鳥鳥になりにいなりけど、

バカなトリがエサを食べている

アサの04x エンドー

はい、すまいですねー

鳥は、こういう目でたいまんなんですね。

全々 動かたないのよ、しかい者の△×○さんば

にせ者だとまけんていました。

次号を準備中

ハイヤ

またくるねー

ふかんど

第211号

1982.5.3

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-166668
編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

陽気がよくなるにつれて、日増しにカニの姿が目立つようになって来ました。

ここ「モデル地区」には、連日の如くカニを捉えに来たり、取りに来る人産が見られます。伊東とその一例です。

晴天の日に行くと、皆さんは、小さなハ



サミを上下に振って体操して「体操がニ」を捉えよう。わざか一センチメートルぐらいの体ですから、よく目をこらして見て下さい。皆さんいっせいに体操してきますよ。人が近づく、次々と穴の中にかくれてしまいます。でど、カニの穴のそばで、身動きしないので

としていると、カニ産は、用心深そうにゆっくりと穴から出て来て、又体操し始めたのです。

かつてゴミの山だった所が今は、波の形のついた砂の干潟になっていて、「カニの砂タンゴ」があちこちにいっぱい出来ているのがわかります。



この日はとつぱら、石やガラスなどを拾いました。大きいものは拾っていたので、小さいものを拾ったのです。大きなバケツに三バインを拾いました。石とかガラスを拾ってどかしてやる程、その為、カニヤゴカイの

すむ穴が出来やすくなりました。現に、二、三日してから拾った所に行ってみると、カニの姿と穴が増えているのはっきりとわかりました。私産の力はとて小さい。そしてその小さい力を、今日一つ、明日と一つと、うまざたりまず続けて行きたいと念い、かつ実行しております。

5月1日 (土)

夕方 夕日で とってもきれいな空。このうめたて地は ハロロのよう。よく似たきたない所に 野鳥たちは住めるの？ 今日 元気におどんでいるきみたち。みていると さいかたこを しているみたい。少しきれいな水で 水あひ。土を つつり している。この場所は きたないけど、人間が 入ってこない、野鳥の天国。私たちが子供には 大人が 入ってこない子供の天国はない。

数十匹の鳥たちが 何所にあつまて いるとしている。ねむっているのかな？ 今私の前を 1匹の鳥が とんでいった。ねむっている鳥も、とんでいる鳥も 何を 考えているの？ おや鳥のまわりには なかなか 数匹も、ちよこちよこ いる。かわい。

夕日と、人たちの あたたかい目に見守られて、いつまでも 元気で、よくよくとどまってネ。

今も ヒョヒョ
チンチン なっています。

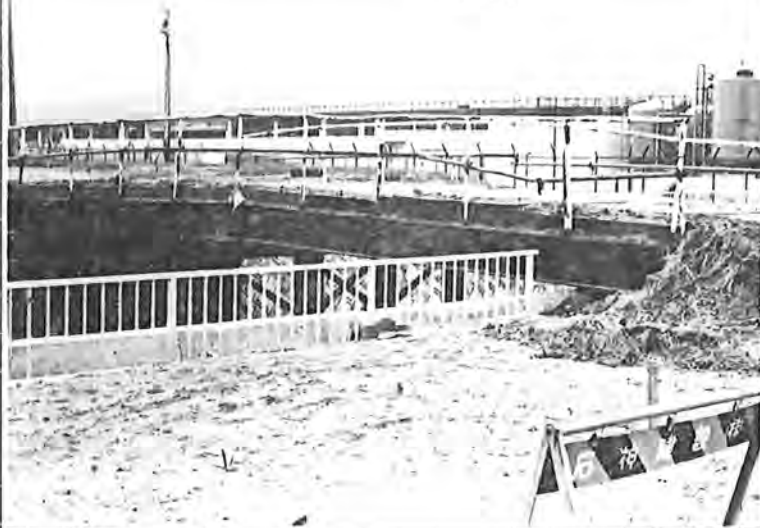
〔鳥を愛する人より〕

ハイハイ

5/2

うみ みたい な むま きたない むま とりが いは い いる だが 少とりの こえ が こえ まくら が い ました。また きて かき ます。

1982. 4. 20



今つまで、皆んなを渡してくれて、どうもありがとう。つ...

皆さん、この橋、谷津干潟に来る人を皆んな、水路を渡らせてくれたのです。すっかり傷んでしまっ、ヤフくて、どこもかしことサビだらけのブツクし姿の橋さん、。今は誰と見向きもせず、言葉になつて人々の話しにそ出てきません。近くて便利な別の橋が出来たら、皆んなさうちに行つて

しまい、いっばいお世話になつたこの橋の姿を、一人も残そうとはしてくれません。でも、私は知っています。まだ、この辺にほとんど人が通らなかつた、砂漠の境、。貝カラと砂と太陽と、そしてコロニーからの思い出を、。いつしかオレは、お前を好きになつてしまった。ほんとに、に、ありがとう。。

私産の夢。干潟と埋め立て地を知り仲間で、他日、その「集大成」を作ることです。

ふがんど

号212

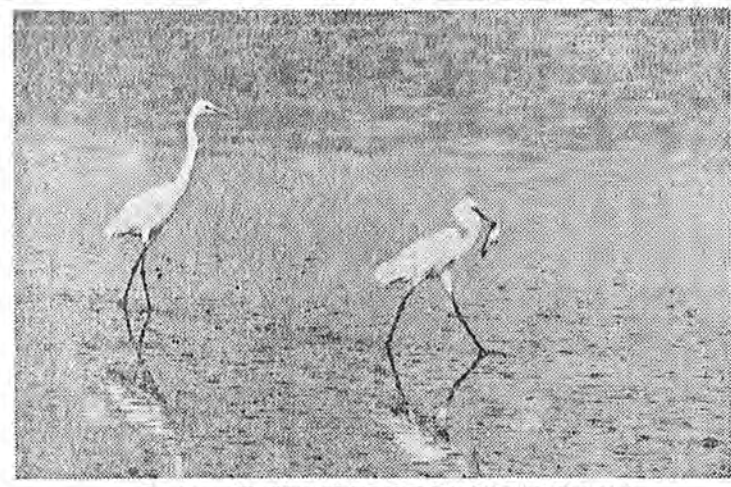
1982.5.5

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市北カ2-1-1
 電話 0476-21-1111
 編集 森田三郎

会費 年2000

刊 1980.6.3

野鳥の生態を写真パネルで



ヨーロッパ西部からアジア南東部に分布するダイサギ

愛鳥週間にちなみ

写真家・五十嵐吉夫の世界

7日から津田沼PARCOで

愛鳥週間は五月十日から始まるが、それになんで野鳥の写真パネルを中心とした「バード・ウォッチング」五十嵐吉夫の世界展（協力：日本鳥類保護連盟、サントリー）ならしの朝日新聞社が、五月七日から十九日まで津田沼PARCO四階特設会場で開催される。シギ、チドリ類など水辺の野鳥に魅せられて、もっぱら野鳥の姿を撮り続けてきた写真家・五十嵐さんの写真パネル45点を展示するほか、愛鳥週間にちなみ、愛鳥度テストコーナーやバード・カービング教室が設けられる。

野鳥週間は五月十日から始まるが、それになんで野鳥の写真パネルを中心とした「バード・ウォッチング」五十嵐吉夫の世界展（協力：日本鳥類保護連盟、サントリー）ならしの朝日新聞社が、五月七日から十九日まで津田沼PARCO四階特設会場で開催される。シギ、チドリ類など水辺の野鳥に魅せられて、もっぱら野鳥の姿を撮り続けてきた写真家・五十嵐さんの写真パネル45点を展示するほか、愛鳥週間にちなみ、愛鳥度テストコーナーやバード・カービング教室が設けられる。

野鳥の生態を写真パネルで、野鳥の魅力を自然の素直な姿を知らせてくれる。野鳥の魅力を自然の素直な姿を知らせてくれる。野鳥の魅力を自然の素直な姿を知らせてくれる。野鳥の魅力を自然の素直な姿を知らせてくれる。

「なつしの朝日」
 〒23号 57-5-5

五十嵐氏は、干潟と埋め立て地を静かに沈着に撮り続けていた人です。この人と肩を並べたのは、埼玉の藤宮敦郎氏にいらした。私の知り限り

この二人は断然他に按んでいた。二人共、野鳥は勿論、とくに、地理環境、草、虫、水溜まり、貝かや砂といったものを数多く撮っていらした。鳥好きのカメラマンにはこれは無い。

バードウォッチング 五十嵐吉夫の世界



期間 57年5月7日～19日
 AM10:00～PM8:00
 会場 津田沼PARCO 4F 特設会場
 (国電 津田沼駅西口)
 TEL 0474(78)4181～2

五十嵐吉夫氏の住所と電話
 〒125 東京都葛飾区青戸7-24-3
 武井マンション102
 03-627-2067

多数のバードウォッチャーという「お客様」の受け入れ態勢の備え。

テーブルとベンチの所を
草刈りをしていきます

この季節、「谷津干潟自然緑地」の草は、すごい勢いで伸びております。草は皆んなど大好きなのです。しかし、テーブルとベンチの所だけに限って言うと、草が高くなると使わずらひのです。

せめて、そのすぐまわりぐらいは刈らなにとどうにしましょうかというのです。私産が刈った所は、使ひやすいのでしよう、やはりそこを多くの方も使っております。でも、誰と自ら草を刈ろうとはしません。やっぱり私産だけでしまししょうよ。

「谷津干潟通信箱」をより
使ひやすくしてあります

通信箱が生まれて丸七年たちました。この向、箱は十箇目、ノートはおよそ三十さつ以上と、殺さずしてしましました。火をつけたり、ビリノくに破れたり、ウソコを入れたり、ドロをべっとりとつけたり、砂のついた草を入れたり、地面に投げ捨てたり、はあとうそのイヤなものをうんざりしたものでしたカー。そして、ノートやペンを盗み切れたりしていた時もありました。しかし今は、少なくなってきたおり、私産を必ず使えようになっています。

テーブルとベンチの修理は
順認に進んでおります

埋め立て地で工事をして、建設会社に頼んで、使用済みの材木をどらり、車で運んでテーブルやベンチの為に使っております。

今までにとらって来た所には、前田建設、竹中土木、辰島建設とその他小規模の工事現場があります。又、工事関係でこわされた所もあります。建設省、伊藤建設、大宮組とも皆売破りに修理して頂きました。

そして、こわらの材木を買ったら、それほとと大きな金額になります。

観察者の多い所を特に、力
に入らして清掃してあります

干潟周辺の、歩く所がそうです。長い目で見た時、車を走らせてゴミの散らかり方は減って来ております。しかし、手を休めて気を抜くことは禁物だと思ひます。

干潟に来た人々が、ゴミを投げ捨てないようになること、このたったこれだけのことが、実はとても根気と努力のいる大変なことです。「干潟に来たらゴミを出さない」、そんな根づかせ、そうなるまで、私産は断えず、後姿で、そして身をこめて示し、現れ、効んでわかればならぬのでしよう。一年三百六十五日「クリーン作戦」の日です。

コケヨ コレ-SD (64x44)

写真。



野鳥のパネル写真展
谷津干潟や東京湾
埋め立て地に飛来す
る野鳥を七年前にわたって追い追
かけている写真家・五十嵐吉夫さん
の作品を集めたパネル写真展
「パトウオッチング五十嵐吉夫
の世界」が7日から19日まで、パ
ルコ津田沼西四階で開催されてい
る。

セイタカシギの優雅な姿、スズ
カモの群れなど、季節ごとに変わ
る野鳥をとらえた二十八点と、干
潟や埋め立て地の移り変わりを写
した十七点計四十五点のカラー作
品が並べられ、自然の世界が見事
に表現されている。無料。

谷津干潟通信箱

～みんなの声～

(No. 892, 893, 894, 895, 896)

5月5日(水) 子供の日

お久しぶりです。私は、4月20日に来ましたY.Mです。
今日は、友達と二人で谷津遊園に行きました... とても綺麗な
野鳥さん、なかなか... ヘリコプターさん、うさぎですね...
T.S君... 早寝が休いて.....

5月5日(水) N. S.

又々来ました。
本当にヘリコプターがうるさいですね。
元々音響で、つたえるこゝろで生きた鳥さんかカウイロウ。
鳥さん、かんぱつて下さい。
こゝろをうめたてないで。

谷津遊園にはよく来たが、そのすぐ裏に、こんな素晴らしい
ところがあるとは知りませんでした。いろんな鳥を自然な場所で、自然な
姿が見れる事は、とてもいい事だと思います。ヘリコプターの音がな
くも、静かに見れたらもっといいだろうと思、いました。子供達も大変興味
深いに見ておりました。

市原 野口

動き回るがたの群れ、また飛べない沢山の鳥、美しく飛び、
白く美事な羽根のさき.....

周囲は、田地、遊園地、空には、ヘリコプターさんとにぎやかな事、
干潟には、もつと緑の植物(あし... etc)が欲しい。
紙しぎや空かんは、だれが捨てるのでしょうか。

小さな生物を大事にする心があるして、どうして美しい野を守るべきか
出来るのでしょうか。

どんなに忙しい日々の中にあっても、静かな時とゆたかな心を持ち
たいものです。大切なものを失ってからは、とりかえしがつかない。

あ、今、数羽の鳥が木空を群れにあって、ダンスも始めました。
右、左、と、下、人工的のヘリコプターには、ない美しい風景
です。

日本のみなさん、今こそ、大決心を持ち、美しい野を守るべし。

谷津干潟 野

ヘリコプターの音にもめげず、元気に動きまわっている鳥たちに、おどろきました。
母の叫びや、はい、気の毒ななと思、詰。子供達は、双眼鏡や望遠鏡と、
そとんで、よく観察し、絵をかき、いつか、過した喜んでおりました。
野鳥のことも、思、人の力が必要で、せつと、残、谷津干潟と開封
した、大事にいかねばならないと、感じました。

松村

5月5日

今日は、とても天気良く空は、ぬけるような青です。とてもきれいですが、
でも海が、すしきたない... せつ、こゝろ所にゴミをすてる
やつは、また.....

(Y.M)

ふかんど

第213号

1982.5.8

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
電話 0476-1-1666
編集 森田三郎

会費年2000

創刊
1980.6.3

こうなるよ。ベンチとテーブルと幸福だ。5月5日(子供の日)の谷津干潟

今は、鳥を見る人よりも市民の方が

こころ、二年の間です。
つまり、野鳥を観察に来る
人ー自然保護関係者よりも
、近くに住んでいる人ー
般市民の方が、はるかに数
が多いのです。逆転してし
まったのです。

おじさん、おばさん、じいさん、
ばあさん、そして子供たち
といった人産の方が、バードウ
ォッチャーよりもずっと多くな
ってしまいました。これは、干
潟保存にとって、とても心強い
、明るいことだと思います。

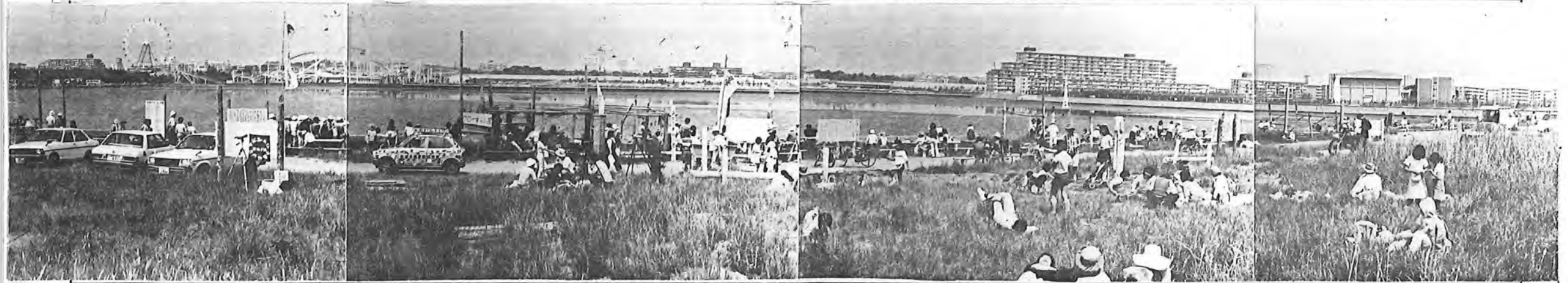


この日、ちょうど観察会が行なわれていました(5/5)



鳥を見るだけでなく草刈りを

草むらは人々人々



ふがんど

第214号

1982.5.10

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五ノ六
 電話 0476-51-1666
 編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
 1980.6.3



感謝状

前田建設工業株式会社
 東京支店高瀬作業所
 所長 池田徳夫様

あなた初め所員一同は谷津干潟の野鳥保護、自然環境整備に協力、労務を奉仕されました。その多大なる奇功は、当会員及び地域住民にとり、大なる支え、励みになります。その成果、功績は、まことに顕著であり、ここに深く感謝の意を表します。

昭和五十七年三月十日

谷津干潟愛護研究会
 谷津干潟環境美化委員会
 代表 森田三郎

全国的にも例が無い

私産の立場のグループが、こういうことをしたなんて、まず聞いたことなかったのですが、できやりました。

野鳥の宝庫の清掃ありがとう

谷津干潟愛護研究会
 主未作業所に感謝状
 野鳥の宝庫となっている習志野市の谷津干潟の清掃に協力したとして、パトウイークの十日、谷津干潟愛護研究会(森田三郎代表)が同干潟わきで東関東の工事を行っていた前田建設工業と竹中土木の共同企業体秋津作業所(池田徳夫所長)に感謝状を贈った。
 同研究会によると、秋津作業所では五十五年四月から十数回にわたり、重機やトラック、それに五人八人の作業員を派遣、同干潟周辺に散乱していたゴミ類の除去に当たった。同研究会では自然環境整備のための努力奉仕は会員の励みになったとしている。
 池田所長は「森田さんがボランティアとして個人的に行っているのを知り、しかも地元で役立つことをできる範囲でお手伝いした」と話している。



清掃協力ありがとう

習志野 谷津干潟をきれいにする運動を続けている「谷津干潟愛護研究会」(森田三郎代表)は10日、二年間にわたって清掃活動に協力してくれた干潟近くの前田建設、竹中土木共同企業体秋津作業所(池田徳夫所長)に、感謝状と記念品を贈った。
 同作業所では、森田さんらの活動を知った池田所長が協力を申し出て、これまで十数回の干潟清掃に参加。クレーンや小型トラックを使って、集まったゴミを引き揚げる作業を手伝っている。森田さんは「みなさんの協力のおかげでクレーン作業が支えられてきました」と、同作業所で池田所長に感謝状を手渡し、池田所長は「少しでも地元のために役立つことができ、うれしい」と話していた。

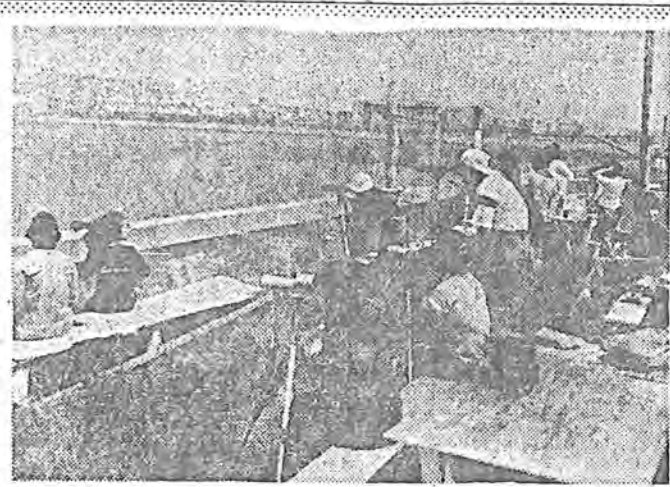
↑1/3に小さくしたその

チドリ科	ガンカモ科	サギ科
ハジロコチドリ	コブハクチョウ	ゴイサギ
コチドリ	オオハクチョウ	ハシブトゴイ
イカルチドリ	コハクチョウ	ササゴイ
シロチドリ	リュウキュウガモ	アカガシラサギ
メダイチドリ	アカツクシガモ	アマサギ
オオメダイチドリ	ツクシガモ	ダイサギ
オオチドリ	カンムリツクシガモ	チュウサギ
コバシチドリ	オシドリ	コサギ
ムナグロ	マガモ	カラシラサギ
ダイゼン	カルガモ	クロサギ
ケリ	コガモ	アオサギ
タグリ	ドモエガモ	ワシタカ科
シギ科	ヨシガモ	ミサゴ
キョウジョシギ	オカヨシガモ	トビ
トウネン	ヒドリガモ	ハイイロチュウビ
ヒバリシギ	アメリカヒドリ	マダラチュウビ
オジロトウネン	オナガガモ	チュウビ
ヒメウズラシギ	シマアジ	ハヤブサ科
アメリカウズラシギ	ハシビロガモ	シロハヤブサ
ウズラシギ	アカハシハジロ	ハヤブサ
ハマシギ	ホシハジロ	チゴハヤブサ
サルハマシギ	オオホシハジロ	コチヨウゲンボウ
コオバシギ	メジロガモ	チヨウゲンボウ
オバシギ	アカハジロ	フクロウ科
ミユビシギ	キンクロハジロ	トラフスグ
ヘラシギ	スズガモ	コミミスグ
エリマキシギ	コケワタガモ	ヒバリ科
コモシギ	ケワタガモ	ヒバリ
キリアイ	クロガモ	ハマヒバリ
オオハシシギ	ピロードキンクロ	ツバメ科
シベリアオオハシシギ	アラナミキンクロ	ショウトウツバメ
ツルシギ	シノリガモ	ツバメ
アカアシシギ	コオバガモ	アトリ科
コオアシシギ	ホオジロガモ	アトリ
アオアシシギ	ヒメハジロ	カワラヒワ
オオキアシシギ	ミコアイザ	マヒワ
カラフトアオアシシギ	ウミアイサ	ヒヨドリ科
クサシギ	カワアイサ	シロガシラ
タカシギ	カモメ科	ヒヨドリ
メリケンキアシシギ	ユリカモメ	モズ科
キアシシギ	セグロカモメ	チゴモズ
イソシギ	ウシカモメ	モズ
ソリハシシギ	オセセグロカモメ	セキレイ科
オグロシギ	ウシカモメ	セキレイ
オオソリハシシギ	シカモメ	ハクセキレイ
ダイシャクシギ	カモメ	セグロセキレイ
ホウロクシギ	ウミネコ	マミジロタヒバリ
シハラチュウウシクシギ	ズグロカモメ	コマミジロタヒバリ
チュウウシクシギ	クビワカモメ	ヨーロップペンズイ
ハリモモチュウウシク	ミツユビカモメ	ペンズイ
コウシクシギ	ソウゲカモメ	セジロタヒバリ
ヤマシギ	ハジロクロハラアジサシ	ムネアカタヒバリ
アマヤマシギ	クロハラアジサシ	タヒバリ
タシギ	ハシロクロハラアジサシ	ホオジロ科
ハリオシギ	オニアジサシ	シベリアジュリン
チュウジシギ	オオアジサシ	オオジュリン
オオジシギ	ハシフトアジサシ	ホオジロ
アオシギ	アジサシ	コジュリン
コシギ	ベニアジサシ	ヒタキ科
セイタカシギ科	エリクロアジサシ	ツグミ
セイタカシギ	コシジロアジサシ	ジョウビタキ
ソリハシセイタカシギ	ナンヨウマミジロアジサシ	ノビタキ
ヒレアシシギ科	マミジロアジサシ	ウグイス
ハイイロヒレアシシギ	セグロアジサシ	コトシキリ
アカエリヒレアシシギ	コアジサシ	オオヨシキリ
ツバメチドリ科	ハイイロアジサシ	ツグミ
ツバメチドリ	クロアジサシ	セッカ
タマシギ科	ヒメクロアジサシ	ムクドリ科
タマシギ	シロアジサシ	ムクドリ
ミヤコドリ科	クイナ科	カラス科
ミヤコドリ	クイナ	ハシホソガラス
カイツブリ科	オオクイナ	ハシホソガラス
カイツブリ	ヒメクイナ	
ハジロカイツブリ	ヒクイナ	
ミミカイツブリ	シマクイナ	
アカエリカイツブリ	マミジロクイナ	
カンムリカイツブリ	シノハラクイナ	
ハタオリドリ科	ツルクイナ	
ニューナイスズメ	ホオバン	

野鳥の写真展 谷津干潟や東京湾岸で野鳥の観察を続けている五十嵐吉夫さん(東京・葛飾区)が、津田沼パルコ四階でカラー写真四十五枚を十九日まで展示している。昨秋十二羽が千葉市舞浜の浜に飛来して話題になったアカツクシガモをはじめ、コミミスグ、ミサゴ、ジョウビタキなどの、めったに見られない生態が紹介されている。

五十嵐さんは写真展のあいさつで「鉄道や道路の工事が急ピッチで進んでいるいま、小鳥たちが安心して繁殖する場所が少なくなっています。それでも鳥たちはやってきます」と、野鳥への理解を呼び掛けている。

朝日新聞 5/12



初夏に誘われ人出ドット

野鳥の楽園に望遠鏡の放列

日本三位の野鳥の楽園、野鳥の谷津干潟には、朝から野鳥好きの若者や、ピクニックを兼ねた家族連れなどが望遠鏡を手につめかけた。干潟の周囲に設けられたベンチや小屋のわきには、望遠鏡の放列。「小さくて白いのは何」という水鳥かななど野鳥園監をばけて確認したり、写生するなど、休日を楽しんでいた。

同干潟は京成谷津遊園の前面に広がり、面積約五〇畝。日本では絶滅寸前にあるハリモモチュウシギやクサシギをはじめ、ハマヤギ、オナガカモなど三十五種一羽羽が四季を通じて生息する。一時、不法野鳥観察を楽しむ者たちも習志野市の谷津干潟で

投棄された建築廃材、商売スズ、海からの木片などのゴミで汚れていたが、地元市民団体「谷津干潟愛護研究会」(森田三郎代表)らのクリーン作戦できれいになり、今春はハマヤギ、ダイゼン、コガモなど三十種一羽羽が飛来している。(曾志野)

観察には目取高く、種類から言ってみると、谷津干潟ほど良い所は他にない。何せ、まわりが高くて、長方形で、中央でなら皆んなわかる。

産経新聞 5/11



生命力の強いヨミの根

これが、埋め立て地を伐物顔にのさばりつくしている、悪名高いヨミの根です。上の写真の太いものは、直径が三センチもありました。

ヨミは群生するので、こういう根が地面の中にメチャクチャに張りめぐっているのです。何しろ、種・根・茎という三つの方法で生長して行くので、その勢力分野も広がっていつてしまうのです。

調査 石川勉氏

ふかんど

第215号

1982.5.17

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
電話 0476-31-1666
編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

竹ぼっぽ

フッカレ水門を境にして、

干潟と反対が巾の方に、野原
や小川、ヨシ野や麦畑、
菜の花畑などがいっぱい
あった頃でした。

大きな沼や小さな
沼、そしていろんな
形をした沼があちこ
ちにありました。沼
には水の生き物たち

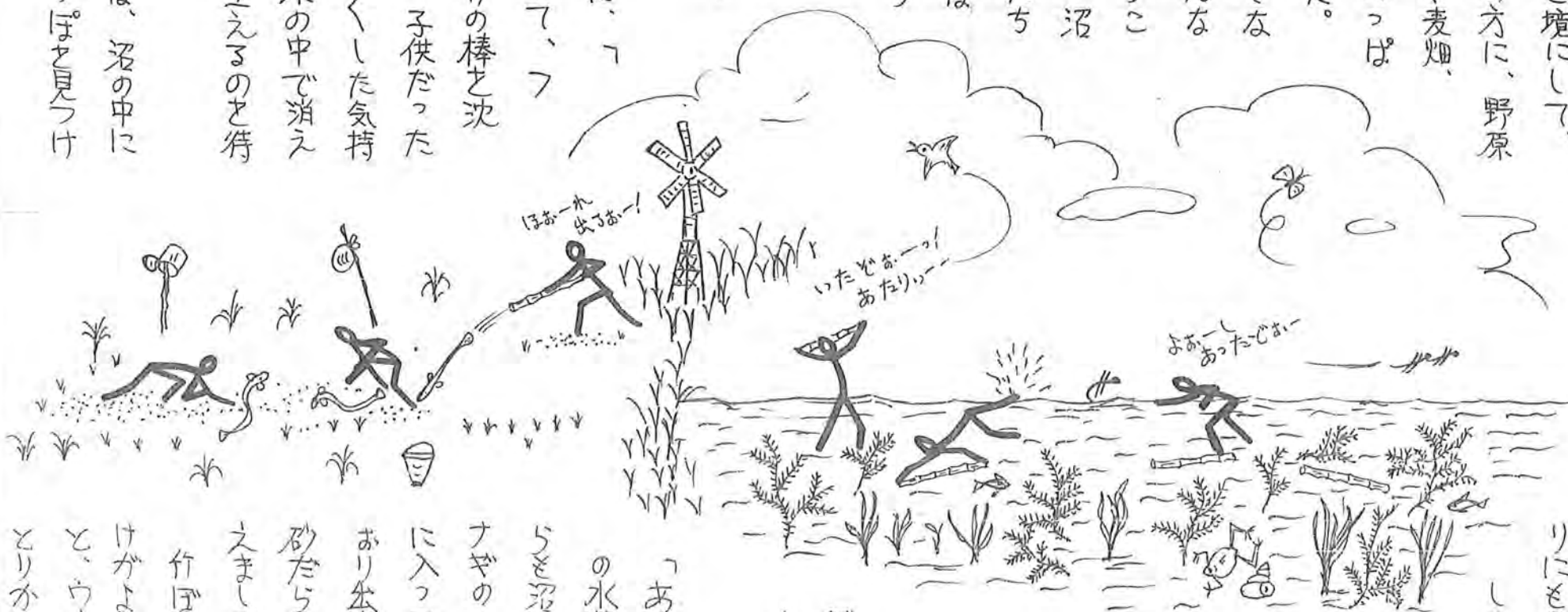
だけでなく、今は
この辺で全く見ら
れなくなっ、てし
まった、水草や

浮き草が生い茂っ
ていました。

そんな沼の中に、「
竹ぼっぽ」と言っ、て、フ
ニをくり抜いた竹の棒を沈
めておきました。子供だった
ぼく産は、じりくした気持

で、竹の包いが水の中で消え
、緑色のコケが生えるのを待
ちました。

やがてぼく産は、沼の中に
とび込んで竹ぼっぽを見つけ



まわるのでした。で、沼は浅くて明るく
て、気持ちいい所でしたが、水草があんま

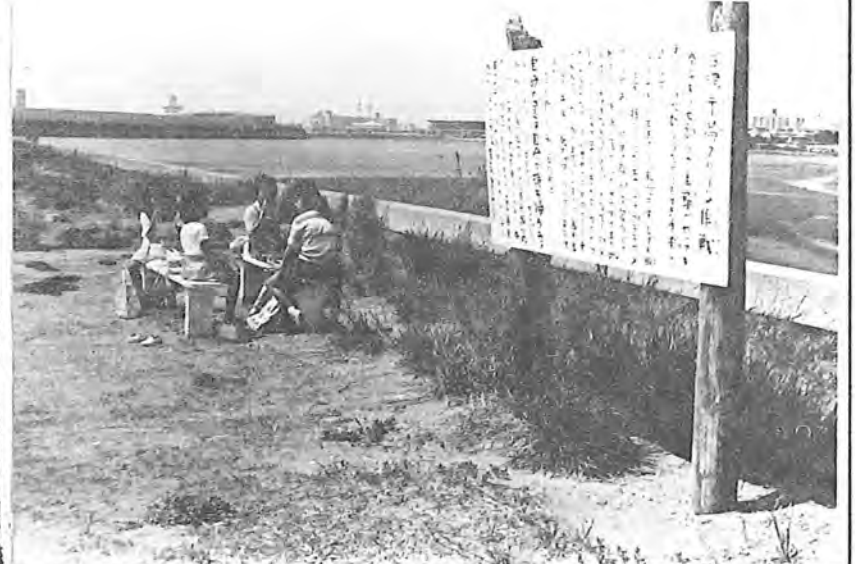
りにも多く茂っ、ていて見えませんで
した。だから、足でさぐっ、て見
つけました。

竹ぼっぽの中には、ウナ
ギがすみついてい、るのでし
た。足で蹴っ、て見つけたら
、水の中にもぐっ、て竹ぼっ
ぽの両端をちでおさえて持
ち上げました。指と手のヒ
ラに少しのスギ肉を作っ、て
水を出してい、ると、手のヒ
ラに、竹ぼっぽの中のウナ
ギが、「つんく」と當っ、て
くるのでした。

うんしくなっ、たぼく産は、
「あたり、り、り、」などと言っ、て沼
の水草をかき分け、又こぼな
らぬ沼から上る、のでした。よく、ウ
ナギの「ニユル」を消す為、畑の中
に入って竹ぼっぽの中のウナギをほ
り出すのでした。ぼくとウナギを
砂だらけになっ、て、やっととりかさ
えました。

竹ぼっぽは又、沼に投げ入っ、てお
けがよかった。キヤンデー屋が来
ると、ウナギ一匹とキヤンデー一本を
とりかえてくれたのでした。

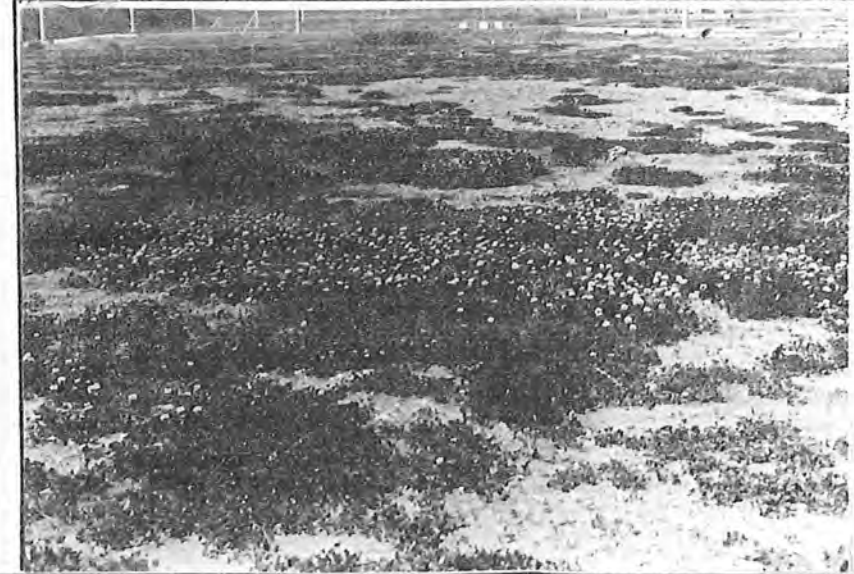
ベンチの所でごはんやお菓子を食べに来ていた子供たち。
 そう、こんな姿はめずらしくなくなりました。
 私たちはゴミを拾うだけではなく、ゴミを子供たちが舐まないよう、身をとって示し、そうしむけていかねばならないのだ。



ここにある一面の草は、全てクローバーである。花は今が盛りと咲き乱れている。
 干潟のすぐそばにある、電地造成された所である。クローバーは、年々その勢力を広がって来ており、ヒバリが好んで巣を作っている。日曜は勿論、普段の日にも家族連れがごはんを食べに来る。



いよいよ船が登場して来ました。本格的になったのです。何しろ、潮が引いたあとの干潟で、テントを張ったり、大きなビニールをしいてごはんを食べたり、ジュース、コーラ、ビールなどを飲んでいたので、アサリ・ミオフキ・マテカイなどがとれるのです。



渡り鳥の調査 NO.1

「おい、みっととゆえからやめろよおー」と、石川勉氏。
 ・四十九年当時より、毎週月曜日、東日本橋の自宅から通い続けている。「オレは一日中部屋の中にいるから、日光浴するんだよー」と。



ふかんど

第216号

1982.5.18

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
電話 0476-1-1666
編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
1980.6.3

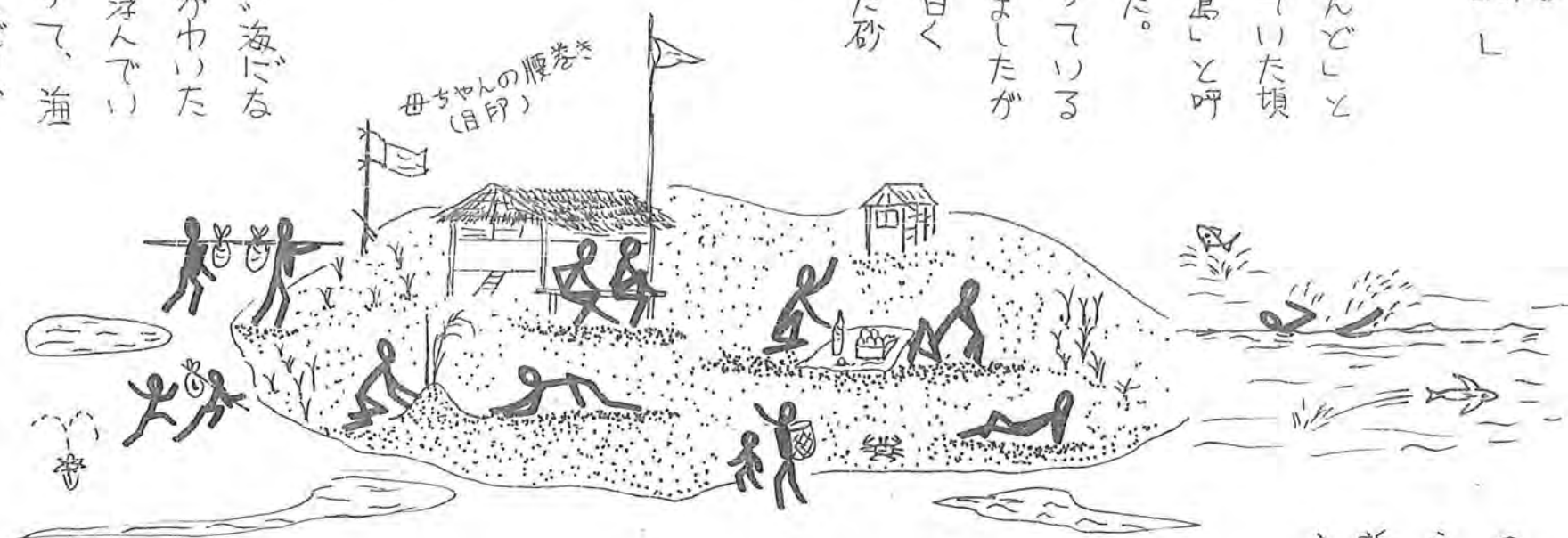
「離れ小島」

昔、谷津干潟が「小かんど」と言われ、トビウオがはねていた頃に、皆んなから「離れ小島」と呼ばれていた島がありました。

さう誦る人もなく、知っていた人さなくなってしまうましたが、その島は、きんいろ、白くてまぶしい、さら／＼した砂で出来た、小さくてなだらかな丘のような島でした。

場所は、今の「ラポート」と湾岸道路の間ぐらゐの所で、少し市川市寄りの所がさうでした。

朝が来て、干潟が全部、海になつて、
「離れ小島」はかわいた砂浜のまま、ポツカリ浮んでいました。納涼台などがあって、海に来た人たちはそこで休んだり、砂の上でごはんを食べたりしてひと息ついたものでした。つまり、「離れ小島」は、海に来た人たちが皆んなの、休みどころ、だったのです。「離れ小島」は、広い干潟



の中にポツンとあって、ちやうど、沖と岸の中間ぐらゐの所に浮んでいました。だから、ぼくたちは、海で遊んだり貝や魚をとったりして岸の方へ帰る時、「離れ小島」にたどり着くと、「ああ、さういいやあ、やっと着いた、ここまで来ちゃえば岸までさうかと思た、ここで休んでから又帰ろうと、さういふふうに思ったのでした。

「離れ小島」は、朝が引くと干潟と地続きになつてしまい、歩いて行けましたし、半分は「船みち」と言って深い所にも接して行きました。そこにはとっても大きなウミガメやトビウオがいるのでした。

「かあちゃん、ほらあ、離れ小島だあ、おれえあそこに着いたら、ウミホウズキやカニヤイソギンチャクのうちを作って遊ぶかんねえ」と言っていたのでした。島では話し声や笑い声がいっぱい聞こえていたのでした。

= 谷津干潟通信箱 ≈ no. 897, 898

～みんなの声～

4月27日 H.O

今日ぼくは下山さんに電報をかいた。
彼女はぼくと同じ生物部だったか、転校し
しまいきび。ぼくは下山さんに鳥の話をしてあげ
ました。「あのね、今日マジサシがいわいいたヨ
ト、え、ほとー。おがと、でんわしてくれ。おられい
わ、グスン」

ぼく「ナ、ナカナイデヨ、ぼくがっいるからさ」

下山「うん、私がんばる。」

ぼく「じゃね、お電報するね」

下山「もう切っちゃうの、さびしいわ」

ぼく「ぼくだって... さびしいさ、女子まだヨ」

下山「エッ.....」

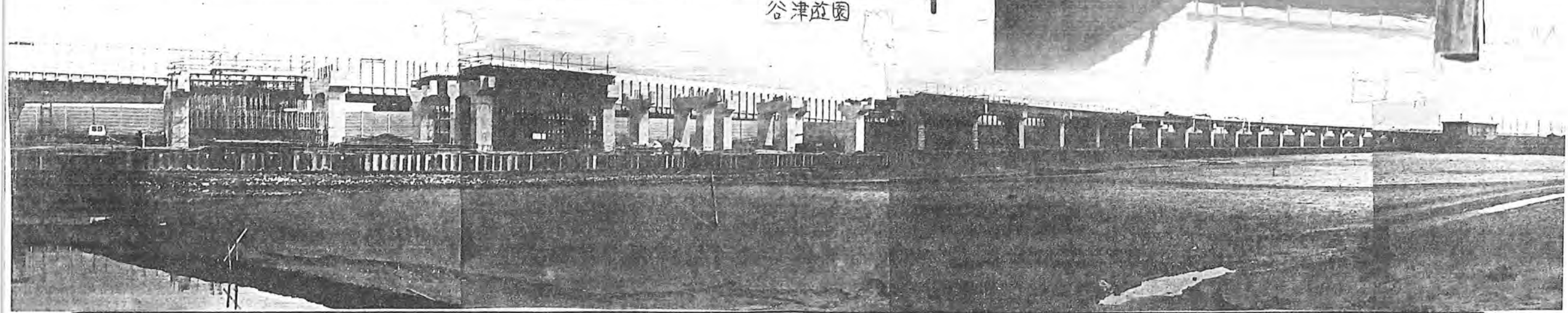
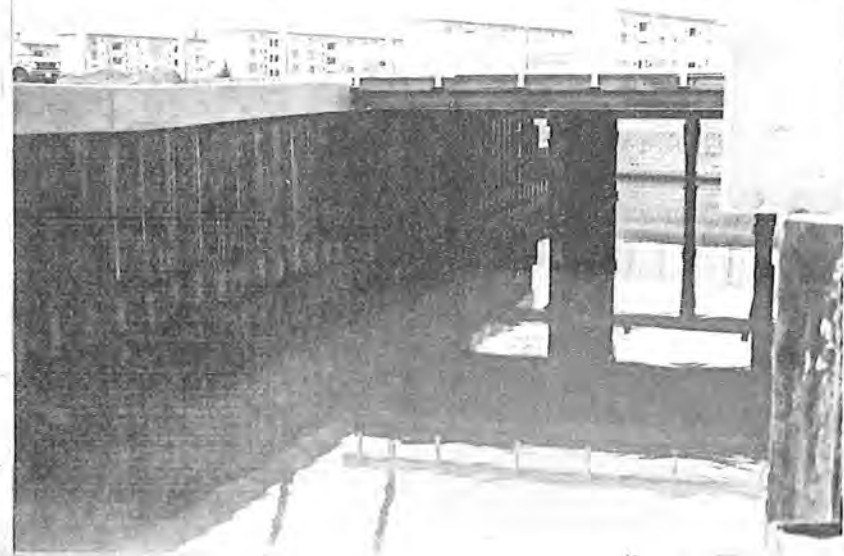
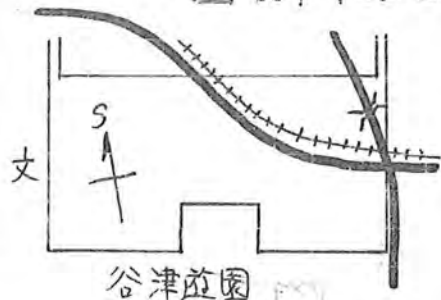
ガヤン。

ぼくの話、読んでくれてありがとう。
生物部は不滅です。

5月9日午後3時40分、妻と二人でオジヤマしました。

クローネの小屋、ふしぎな静かな小屋。人間が自然
に遠慮して、建てさせてもらったあたり。ここでは
風の音、陽の光、自然が主人で、時もゆっくり流
れるようだ。前に来たときはヨシの屋根と壁
がもつとあったように憶えているが、今の風通し
の良いのもいい。いづれにせよこの小屋は、大せいの
人たちが休んで、通りすぎる小屋で、住居ではな
い。住んでる主人は、風です。
永生きできるような安心感に包まれて、すばしい
風を胸一杯吸はせていただきました。
では、またきます。

国鉄京葉線と
西側水路



真夜中のクリーン作戦

今、森田は、京葉港・幕張埋め立て地で、渡り鳥の繁殖調査をしています。広さは約一千七百haあります。期間は、八月初め頃までかかります。巣の作りそうな所を歩いて、巣の数と卵の数を一つ一つ、そして渡り鳥の種類ごとに別けて調査するので、この調査は昭和五十年から続けているのです。

年々その数は減り、淋しくなっています。しかし私は、最後の一つが消えてなくなるまで、「全滅」するまでやり抜く覚悟です。

その一斉、残った時間を、谷津干潟の所に来て、ペンキ塗り、クリーン作戦、テーブルヤベンチの修理をしています。その他、草刈りなどいろいろのこととして

波打ちぎわの砂地で、土いじりをして遊ぶ子供たち。ここは「クリーン作戦モデル地区」。そして時は大潮でした。



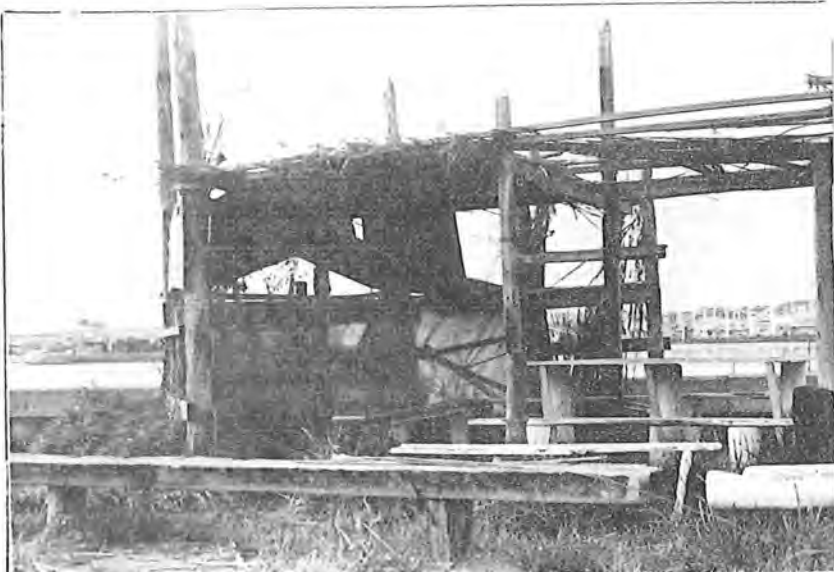
おかあさん産のカニとり。子供にせがまれて、干潟に降りてあちこち掘っています。



あります。以上なわけでした、昼の時間の大部分がなくなってしまうわけです。「クリーン作戦モデル地区」での作業は、服装を使用する道具も、他の所とは少し分違うのです。上から下まで、どんなに汚れてもいいような槍好をしないでならぬし、クマチ、一輪車、ゴム手袋、バケツなどといちいち替えているからです。

夜と言ったとき、スコップで砂をすくって一輪車に積んで運ぶという暗くてとわがたことです。作業は一三時頃ぐらい、七月の半ばには一応すませたりと思っております。

子供たちの「秘密の隠れ家」です。干潟に流れ着いた流木、シート、竹、板きれなどを使っています。



ふかんど

第218号

1982.5.20

谷津千鳥愛護研究会
〒272 市川市本北方二ノ三五六
電話 0476-1666八
編集 森田三郎

会費 2000

刊 創
1980.6.3

夜の千鳥の花火大会

に早く火がおきるとばかりに、七輪の中の炭を「フーッ、フーッ」と吹くのでした。

「バーーン、バーーン、バチン、バチン、ドォーーン、ドォーーン」
その音を聞いたら、

「で、ぼくは、じつとなんかにいられませんでした。」

夏の夕方から打ち上げが始まり、夕焼けからたそがれ、そして夕闇が深くなるにつれて、花火の音の数とその大きさが増えてくるのでした。



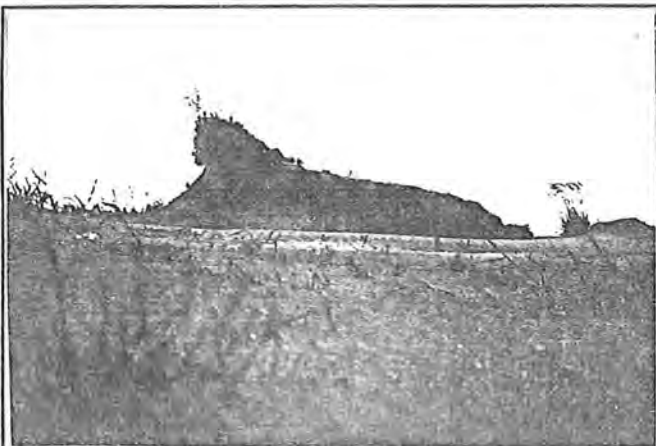
夕食の用意をしておかゆばるらなかつたので、ぼくは早目に井戸の水汲み、マキ割り、庭そうじ、カマドと七輪の火をおこして、ヒヤ麦と汁を作っていました。

時々、少しでスヌア曲を見つけては、広リ千鳥の見える大きな榎の下まで走って行き、そのすぐい早さで高く登って、「ちやんと花火を見届けて」、また下りて夕食を作りました。

お稲荷さんの黒い木立ちの向から、いろんな光の花火が、ピカッと光ってドーンと聞えるのでした。その光を見、音を聞きたがりに、花火が、「さぶう、早く来いってばあ、来いってばあ、来いってばあ」とセツツいていこうよでした。刺木目だらけで針金を巻いてある、ぶっくわ七輪が、ギリギリに破けたウチワで力まかせにバタバタくあおぎ、その上さう

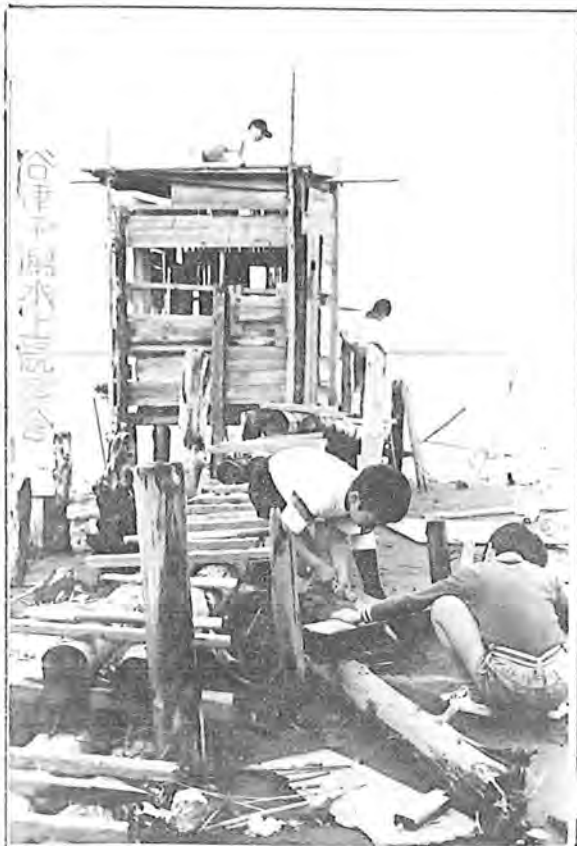
花火大会のマグラは、千鳥の中に作り出しました。今の「ララポルト」の少し手前。土手道と花火の向、暗い海にはとてきたくさんの漁船が出て浮いていました。で、ぼくは、いつと、昼間の庭で、土手の草ムラの中で眠ってしまふのでした。花火のあと、ヤグラの木を使って、ぼく産はイカガを作った遊びました。

コロニーからの便り (1)



環境整備が進められています
繁殖調査のほうは、一日四
時間やれば、三日でひと回わ
りしてしまふ。とにかく営巣
する所が少なくなっています

た。だから、残りの時間、こ
っちのほうがずっと長時間な
のだが、干潟に来て、草刈り
、テーブル・ベンチの修理、
クリーン作戦、市民に望遠鏡
を使ってもらふこと、見まわり
などやっています。



この男の子たち、
学校が終了と干潟に
来て、こうして大工
仕事をいつとしてい
る。「おじさん、こ
れぼく産のうちにし
ていい？」と言う。



近くの秋津団地の中学生
。一畑前からペニキ塗り
をして来るからと約束して
いた。出来ばえは、不

「コアジサシよ、又会ったな、
今年もよろしく！」

だろうか、

ズリ埋め立て地を、ミグサグ状に歩き
ながら、巣と卵を一つくちエックして
いく夏の毎日。そろそろで、八年目にな
りました。一人黙々と貝カラヤ砂の、砂

今年、真っ先に感じたことは、「コアジサ
シの数が少ないなあ」ということであつた。
コアジサシだけではなく、ミロチドリと、コ
チドリと、姿とその鳴き方が少なくなつて
た。しかし、実際にあちこちを歩いてみると
、他の鳥、とくにミヤ・チドリの数を減って
いることがわかつた。

漠のような所を
、巣を見つけ次
第、一定方向と
一定モヨリに目

谷津干潟には、数千の渡り鳥がいますとい
うのに、約五十倍近くの広さの埋め立て地では
、急遽に数が減り続けています。

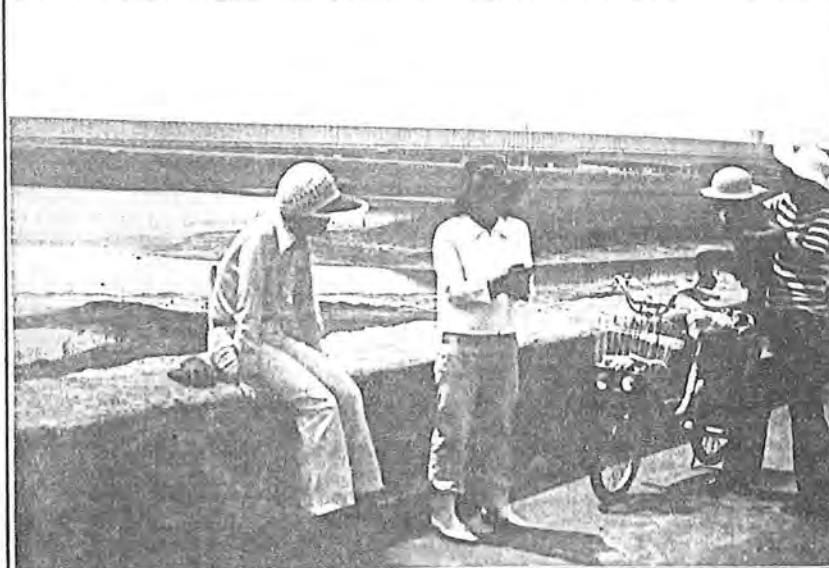
印の小さな棒を
立ててゆく。思
えばこれまで、
何本立てたこと

汚水に汚水、あちこちがスリ切れていて貫
録十分のシヨルターバッグ。ノートとペン、
小さい小さな棒がいっぱい入っている。その
棒が、今は余ってしまい、何だか淋しいです。

5月30日を、「谷津干潟530=ゴミゼロ作戦」とします

第54回 谷津干潟クリーン作戦

五月十八日に行われました。近くの主婦三人、ニ才児一人、そして森田です。地道で、目立ちませんが、実はこれが「谷津干潟クリーン作戦」の「からし種」なのですよ。



干潟のそばを清掃する、津田沼高校の生徒です。十日に一度くらい。「ご苦労さん」と言ったら、「いやあー」とてわてっていました。



大蔵省関東財務局千葉財務部が、約土ノウ袋千袋(四トニダンプ四台分)のゴミを取りに来ました。(五月十七、十八の二日間)

期日 五月三十日(日)
 時間 午前十一時～午後五時
 場所 「フローネの小屋」
 一テーブルとベンチの所
 尚、参加時間は自由です

「谷津干潟クリーン作戦」と、ようやく世に認められて来ました。この度、干潟のそばの「谷津ハイソ自防会」と、谷津干潟を含め、身のまわりの清掃をすることに決めたとのこと。又九月頃、日本野鳥の会は更に大きなクリーン作戦を計画しています。

ふかんど

第219号

1982.5.26

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五番六
 電話 ☎三三二一六六六八
 編集 木林 田三郎

会費 年2000

創刊
 1980.6.3

森田に電話が入りました。

どうもありがとうございました。

住所 〒275 習志野市谷津3-7-7 鷗荘E号
 TEL 0474-51-5044
 (昼間はいい)
 ∴ 今までの市川市の方で連絡をとります。

- 五十嵐吉夫さんより、写真展の時に使った、Tシャツ・殺人がキ・カレニダー、約三万六千円分の品を頂きました。売った代金で、友の会の望遠鏡を買って欲しいとのことでした。
- 近藤英行さん(オートレースの選手)より、七十円切手百枚、軍手百足を頂きました。尚、近藤さんは森田の中学時代の同級生です。

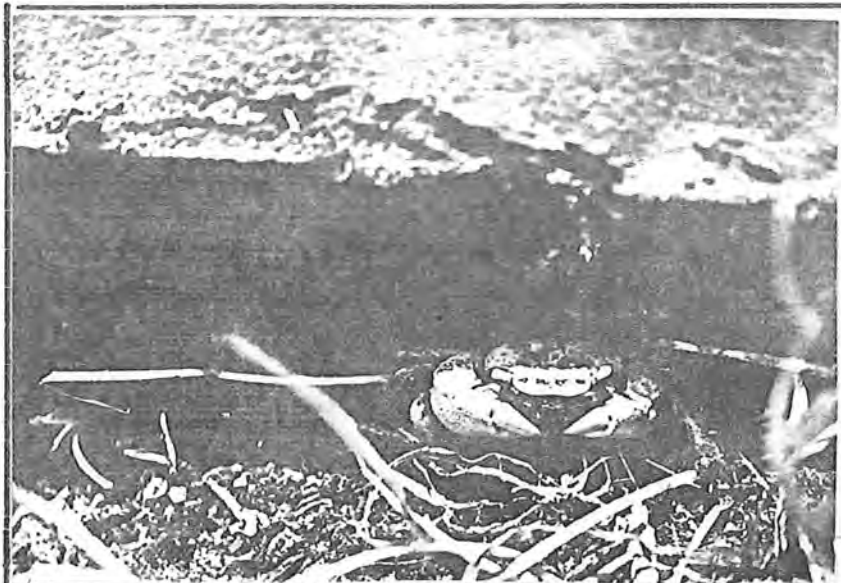
谷津干潟通信
 No 899
 900

5月21日 日曜日 PM 5:00
 とても気持ちいい日です。今朝、この観察所においでです。
 ちびりのさえずっています。
 水かみちているので魚がゴキブリと、とびはねています。
 白い鳥を小まむ鳥かとんでいます。
 前に来てとまむ鳥の数が少ないです。
 何の鳥にかわからず、7:00 7:30 と、変わった音で鳴いています。
 鳥の糞のついた車を、やがて来たおじさんに会いました。
 車をかいてあげた。いつも気をくばってくれているんですね。
 これからは、おとすと、ここがまたかわらぬ場所です。
 できれば、ゴミとか、ハドロが取れておとすの音に耳を
 もらいたいです。

津田沼高校 (M&K 5)

1982. 5. 5
 今年から多岐な。 (8月)
 今までのいりど野鳥の観察が出来た事は初めて
 感謝状を送る。
 いりど野鳥の観察が初めて 有るまで。

津田沼 4 町
 電話 534



写真ではちょっとわかりにくのですが、更には堤防の上に積んでおいたゴミ袋の下にいたアシハラガニです。



「この野郎、お前さんの石をいったりどうする気だあーっ、しどなつた。水路に投げこもうとしていた。」

ふかんど

№220号

1982.5.29

谷津干潟愛護研究会
 〒272 市川市本北方二丁目三五ノ六
 電話 0430-311666
 編集 森田三郎

会費 年2000

創刊
 1980.6.3

千葉港にコロニーが復活す

フッコの向、市川の吉田美南子さん、そして子供の千祥子ちゃん(中一・双足大付)といっしょに見に行きました。



卵 ↓

場所は、習志野市芝園、千葉工業大用地です。ブルドーザーで地ならしをした為、貝ガラと砂ガムキ出しになったからです。六年前、私が調査した時には、現在より二十数倍ほどの大きなコロニーがありました。千祥子ちゃんが見た所は、工事が始まるまでの、ほんの束の向にコアジサシたちが巣を作っていました。

でも、このとき、一週向たたないうちに、コイルタール状にした草の種が蒔かれています。そして、その後も再び巣を作っています。

暑さにめげず、精力的に...

谷津干潟の為と、ここに来て利用する人の為にしてあります。テーブルとベンチの修理・ペニキ塗りは、七分通り出来ました。草刈

りは、二回目にかかっています。

私達は、谷津干潟とその生きものの産がよさなことが喜び、鳥を見てよさな人が見て喜ぶのです。それが目的なのです。汗と砂と泥、そしてペニキだらけになっています。



